

第三次草加市観光基本計画（素案）

令和5年12月

草 加 市

目次

第1章 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の背景と目的	1
2 計画策定の考え方	2
3 計画の位置付け	3
4 計画の期間	6
第2章 観光を取り巻く現状と課題	7
1 近年の観光を取り巻く全国的な状況	7
2 本市の観光を取り巻く現状	9
3 本市の観光における課題	15
第3章 計画の基本的な方向性	17
1 基本理念	17
2 基本目標	17
3 目的実現に向けた視点	17
4 基本方針	18
5 市内各エリアの特性と方向性	20
第4章 具体的な施策	31
1 施策の体系	31
2 施策の展開（推進計画・アクションプラン）	32
3 リーディングプロジェクト	44
4 計画の推進に向けて	50

第 1 章 計画策定の趣旨

計画策定の趣旨として、次のような内容が挙げられます。

1 計画策定の背景と目的

本市では、平成 28 年（2016 年）3 月に「第二次草加市観光基本計画（以下「第二次計画」といいます。）」を策定し、「第四次草加市総合振興計画第二期基本計画」において重点テーマに位置付けられている「ブランド力の向上」、基本計画の施策である「おもてなしの心が息づく観光の振興」の推進を基本として、本計画でのキャッチコピーである「おもてなしの心が息づく観光の実現」を念頭に置き、本市における観光施策を推進してまいりました。

第二次計画策定以降、全国の観光を取り巻く大きな変化の一つとして、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が挙げられます。その結果、市民及び来街者の行動様式の変化や市内各種イベントの開催中止に伴い、本市における観光入込客数は大幅に減少しました。

しかし、令和 6 年を迎えコロナ禍からの回復が見込まれる今後の草加の観光においては、観光入込客数の回復を始めとする地域のにぎわい創出が期待されています。

あわせて、SDGs のほか、DX など地域づくりなど多分野におけるデジタル技術の導入といった様々な社会情勢の変化にも対応した新たな観光戦略が求められている中で、将来にわたって持続可能な市民生活を実現していくために、観光という切り口から地域の活性化及び交流人口の創出に向けた取組を進めていくことにより、草加市の持つ魅力を市民とともに高め、市内外に発信していくことが重要と考えられます。

以上のような背景や考え方に基づき、第三次草加市観光基本計画（以下「第三次計画」といいます。）は、第二次計画を継承しつつ、これまで取り組んできた施策や事業の検証により必要な見直しを行うとともに、近年の観光を取り巻く変化等に対応し、今後の観光振興の取組を明確にすることを目的に策定しました。

2 計画策定の考え方

第三次計画は、第二次計画の理念や体系は継承しつつ、第二次計画策定以降の本市を取り巻く環境の変化を踏まえ、次の内容を盛り込み策定しました。

(1) 社会環境の変化に対応して、新たな視点や新たな施策を加える

アフターコロナやSDGsによる行動様式・意識の変化、DX、IoTなどのデジタル化、MaaSによる新たなサービスなど、第二次計画策定以降の社会環境の変化を踏まえて、計画内容を見直します。

(2) シビックプライドの醸成やマイクロツーリズムの観点を加える

草加の観光とは市外の人たちが草加を楽しんでもらうことに加えて、市内で生活している方が同じように草加を楽しみ、より一層草加市のまちに愛着を持ってもらう視点が重要と捉え、シビックプライドやマイクロツーリズムといった市民目線の要素を計画に盛り込みます。

(3) 子育てを切り口とした観光の観点を加える

草加市民アンケート（令和4年度（2022年度）実施）の年齢別にみる草加市の目指すべき将来像として、18～40歳代では「子育てや教育のしやすい、子どもが育つまち」が1位又は2位となっている一方、本年齢層における施策市民アンケート（令和3年度（2021年度）実施）では、観光施策の満足度が低い結果です。このため、子どもを連れていくことができ、親子ともに楽しめる観光資源やイベントなどを活用した、子育てを切り口とした観光の推進を計画に位置付けます。

(4) 市民・市民団体が主体的に取り組むべき取組を入れる

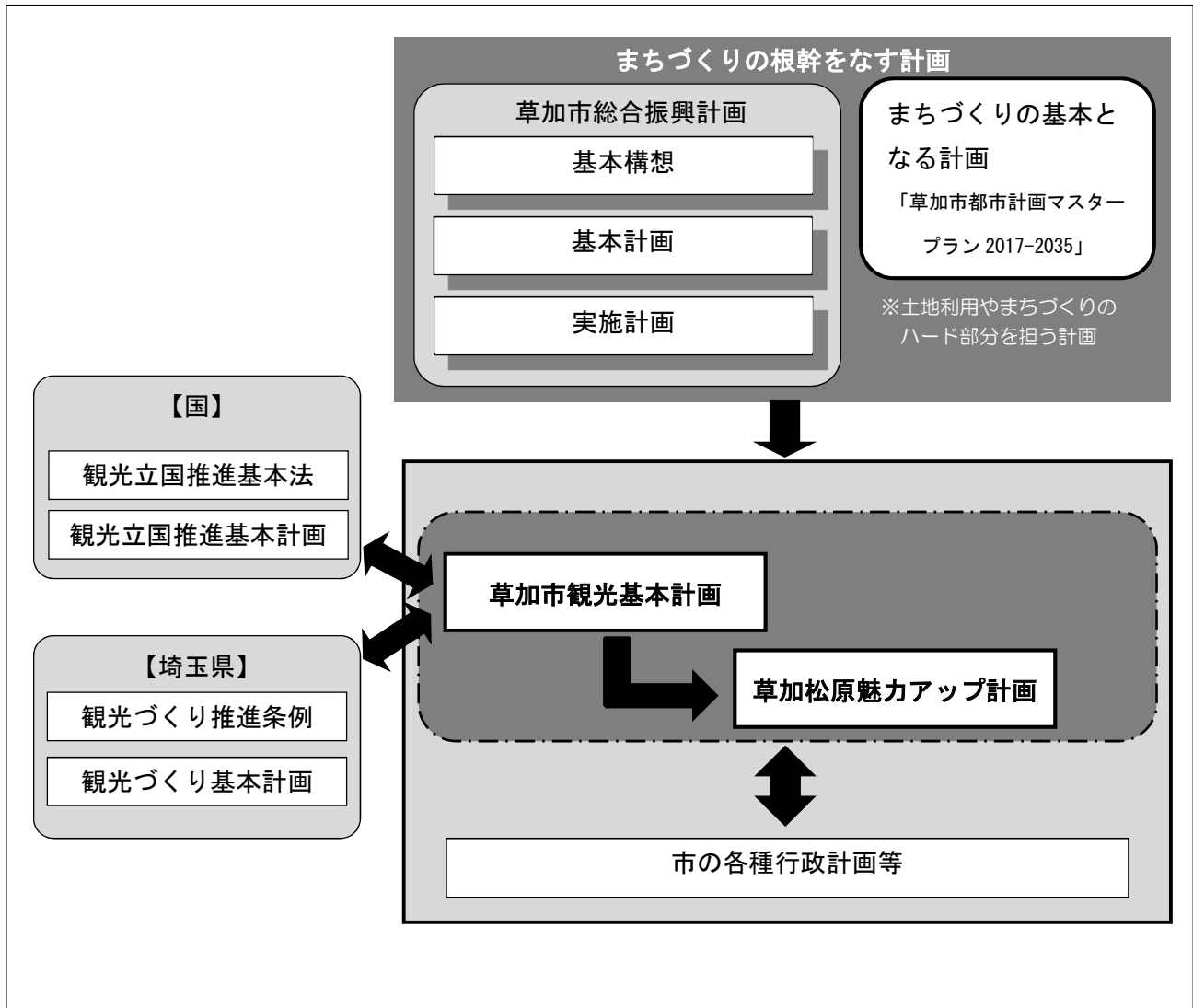
観光に関する取組は、行政だけの役割ではなく、民間事業者や市民・市民団体が担うものも多く含まれています。これら市民・市民団体に主体的に実施していただきたい取組について、具体的な行動に向けた参考として、アイデアやその具体例などを示します。

(5) 草加の観光を先導するリーディングプロジェクトを定める

第二次計画のアクションプランは多様な取組を万遍なく並立に位置付けていますが、社会情勢の変化などを踏まえ、草加の観光をより戦略的に進めるとともに、観光の目玉として育てていくために、複数のアクションプランを連携させ、より優先的に取り組んでいくものをリーディングプロジェクトとして位置付けます。

3 計画の位置付け

本計画は、本市の基幹計画である「第四次草加市総合振興計画」を始め、「まちづくりの基本となる計画～草加市都市計画マスタープラン 2017-2035～」等との整合を図るとともに、国及び埼玉県の計画を踏まえた計画として位置付けられます。



●○● 「第四次草加市総合振興計画第三期基本計画」における観光に関する位置付け ●○●

施策 16 おもてなしの心が息づく観光の振興

【施策の意図】

観光の側面から、本市のまちの魅力向上を図ります。

【現状と課題】

本市は、日光街道の宿場町として栄えたという歴史を持ち、俳聖松尾芭蕉による「おくのほそ道」をゆかりとして国指定名勝となった草加松原をはじめ、特色のある産業や各種お祭りなど、様々な魅力ある観光資源があります。

- 観光に関する情報は、様々なツールを組み合わせながら効果的に受発信する取組が必要です。
- 市民が草加の魅力について知る機会をつくり、理解を深めることで、地域に愛着と誇りを持つてるようにすることが必要です。
- 全国的にも知名度の高い草加せんべいや国の名勝に指定された草加松原などの既存の観光資源の価値を高める情報発信、新たな観光資源PRによる来街動機を想起させるとともに、外国人観光客を含めた来街者へのおもてなし力を高める取組が必要です。
- 市内外の来街者に対するおもてなしの拠点や情報発信スポットの整備、外国人観光客受け入れのための案内板・サイン等の多言語化などの整備を行うことが求められています。

【施策の柱と方針】

● 魅力ある観光の推進

- ◇市民を始め、本市を訪れた人が、その体験を発信したくなるような魅力ある観光コンテンツの充実を図り、市民や来街者が草加の魅力を「つたえる」ことで、来街者の増加を目指します。
- ◇これまでの名所旧跡を「みる」観光から、参加体験型の「感じる」観光へと充実を図りつつ、訪れた人を魅了する「みせる」観光へとつなげ、草加のファンを増やすことを目指します。
- ◇市民一人ひとりが草加のことを良く知り、おもてなしの心を持って来街者に接することができる、草加の観光を「ささえる」人材の育成を進めます。
- ◇複数の観光資源を様々な切り口からネットワーク化し、移動の環境を整え、適切な情報発信を行うことで、市内の観光資源を「つなげる」魅力ある観光ルートの形成を目指します。

【関連分野別計画等】

第三次草加市観光基本計画

【SDGs との関連性】



●○○ 「草加松原魅力アップ計画」との関連性 ●○○

① 策定目的

平成26年（2014年）3月18日、文化庁より、「草加松原」が旧日光街道の名所であり、松尾芭蕉のゆかりの地であることから、「おくのほそ道の風景地」の一群をなすものの一つとして、全国の12か所とともに国の名勝に指定をされたことを受け（その後の追加指定を受け、令和5年（2023年）9月現在で26か所）、草加松原及びその周辺のさらなる魅力アップを図り、市内外の方々の来街動機を創出させるような取組の推進を目的として、「第二次草加市観光基本計画」に基づき、「草加松原魅力アップ計画」（以下「魅力アップ計画」といいます。）を策定しました。

② 本計画との位置付け

本計画に基づき、「草加松原及びその周辺」で実施が想定されている事業等の具体化に向け、その検討の方向性等を定めたものです。

③ 計画の対象範囲

「第四次草加市総合振興計画」及び「まちづくりの基本となる計画～草加市都市計画マスタープラン2017-2035～」で位置付けられている都市核、文化核及びにぎわい交流エリアを含む範囲（草加松原及びその周辺）を対象範囲としています。

④ 施策展開の基本的な考え方

【草加駅東口】

- ・草加松原及びその周辺を訪れる来街者の玄関口として、にぎわいの創出を図るとともに、草加松原や草加宿等、当該エリアにおける観光機能の充実を図ります。
- ・旧日光街道に隣接する空間にあっては、駅前のにぎわいから草加宿へと誘う演出に向けて、沿道を中心に落ち着いたある景観形成を図ります。

【旧日光街道】

- ・草加松原及びその周辺の主要動線として、来街者が気軽に立ち寄ることのできるお休み処等の便益施設の充実及び快適性の向上を図ります。
- ・札場河岸公園周辺の旧日光街道と草加松原との結節点においては、草加市の主要資源である草加松原と草加宿の結節点として、松原や綾瀬川、草加宿への良好な眺めを確保し、草加の風景を楽しむ滞留機能の向上を図ります。
- ・現存する歴史的建造物を中心に、街並み全体として、草加宿にふさわしい、落ち着いたある沿道景観の形成を図ります。
- ・草加市庁舎、歴史民俗資料館等、旧日光街道沿いの既存公共施設において、草加の文化芸術に関する発信・伝承の充実を図ります。

【草加松原周辺】

- ・名勝指定範囲においては、「おくのほそ道の風景地 草加松原」保存活用計画及び同整備基本計画に基づき、適切な整備のもとに保存、活用を進めます。

- ・綾瀬川右岸の足立越谷線沿道は、草加松原との視覚的一体性に配慮し、落ち着いた風景形成を図ります。
- ・広がりのある綾瀬川左岸は、草加市を象徴する草加松原を対岸に望むことのできる立地をいかした魅力的な空間を形成し、草加市の文化芸術の拠点である草加市文化会館を中心に、地域住民や来街者がさらに文化芸術の魅力に触れることのできる機能の向上を図ります。
- ・旧日光街道と草加松原との結節点において、来街者が滞留し、休みながら風景を眺めたり、湯茶接待などができるおもてなし機能の充実を図ります。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度（2024年度）から令和17年度（2035年度）の12年間とします。

ただし、総合振興計画基本計画の改定に合わせて4年ごとをめどに、また、社会経済状況に大きな変化があったときなど、必要に応じて見直しを行います。

令和 6年度 /2024 年度	令和 7年度 /2025 年度	令和 8年度 /2026 年度	令和 9年度 /2027 年度	令和 10年度 /2028 年度	令和 11年度 /2029 年度	令和 12年度 /2030 年度	令和 13年度 /2031 年度	令和 14年度 /2032 年度	令和 15年度 /2033 年度	令和 16年度 /2034 年度	令和 17年度 /2035 年度
第四次草加市総合振興計画基本構想 (令和17年/2035年まで)											
第三期基本計画			第四期基本計画				第五期基本計画				
まちづくりの基本となる計画 草加市都市計画 マスタープラン2017-2035											
第三次観光基本計画											
			計画 見直し				計画 見直し				

第2章 観光を取り巻く現状と課題

近年のわが国における観光を取り巻く状況や、本市への来訪者、関連事業者、有識者の意見などをもとに、本市の観光に関する現状と課題を整理します。

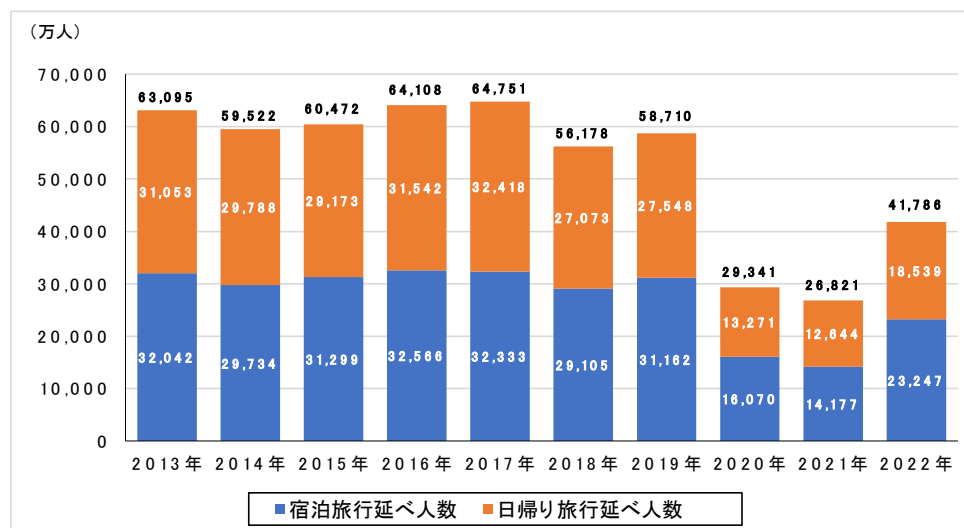
1 近年の観光を取り巻く全国的な状況

(1) 新型コロナウイルス感染拡大を契機とした観光動向の変化

日本人の国内宿泊旅行および国内日帰り旅行の延べ人数は、新型コロナ禍前の令和元年（2019年）の約5億8,710万人でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年（2020年）には約2億9,341万人、令和3年（2021年）には約2億6,821万人と大きく減少しました。しかし、令和4年（2022年）には約4億1,786万人に回復しています。

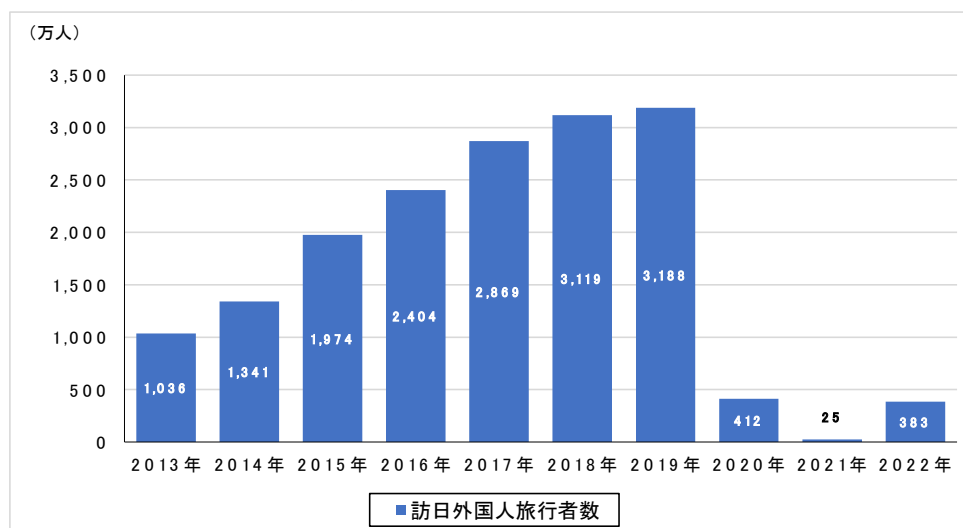
訪日外国人旅行者数は、令和元年（2019年）までは、ビザの戦略的緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充など積極的な訪日外国人受入れに向けた施策の導入などにより、過去最高を更新していましたが、令和2年（2020年）及び令和3年（2021年）は、新型コロナウイルス感染拡大により年間を通じて大きく減少しました。令和4年（2022年）には、入国者数の上限撤廃、個人旅行の解禁などの大幅緩和等により大きく増加しています。

日本人の国内宿泊旅行・日帰り旅行の延べ人数の推移



【参考】観光庁「令和4年度観光の状況」及び「令和5年度観光施策」（観光白書）を基に作成

訪日外国人旅行数の推移



【参考】観光庁「令和4年度観光の状況」及び「令和5年度観光施策」（観光白書）を基に作成

日本人の旅行形態は従来の団体旅行から個人あるいは友人同士など少人数の旅行にシフトしています。これら少人数の旅行者は、趣味指向に応じて来訪地や楽しみ方を選択するため、このような動きに対応したニューツーリズムを展開する自治体や地域も増えてきています。

（２）観光分野におけるデジタル技術の活用

スマートフォンの普及とともに、旅行前の情報収集や各種予約、旅行中の移動経路検索や写真撮影など旅行にデジタルを活用する人が増えており、企業、個人を問わず、観光の情報発信のツールとして、XやFacebook、Instagram、TikTokなどのSNSの活用が一般化しています。また、観光MaaSなど旅行者をサポートするデジタル技術や、観光DXなど観光施策へのデジタル技術も進展しており、サービス提供者、来街者ともにデジタルを活用した観光が一般的になっています。

（３）SDGsの実現に資する観光

国連が主導するSDGs（持続可能な開発目標）では、17の目標と169の達成基準が示されていますが、UNWTO(国連世界観光機関)では、これら目標のうち特に観光分野において取り組むべきものとして、目標8「働きがいも経済成長も」、目標12「つくる責任つかう責任」、目標14「海の豊かさを守ろう」に重点を置いた活動を行っています。

このような動きをとらえ、今後は、観光においてもSDGsを意識したサステナブル・ツーリズム（訪問客、産業、環境、受入地域需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光）を目指した取組を推進していくことが大切です。

2 本市の観光を取り巻く現状

アンケート調査等から見られる現状として、次のような点が挙げられます。

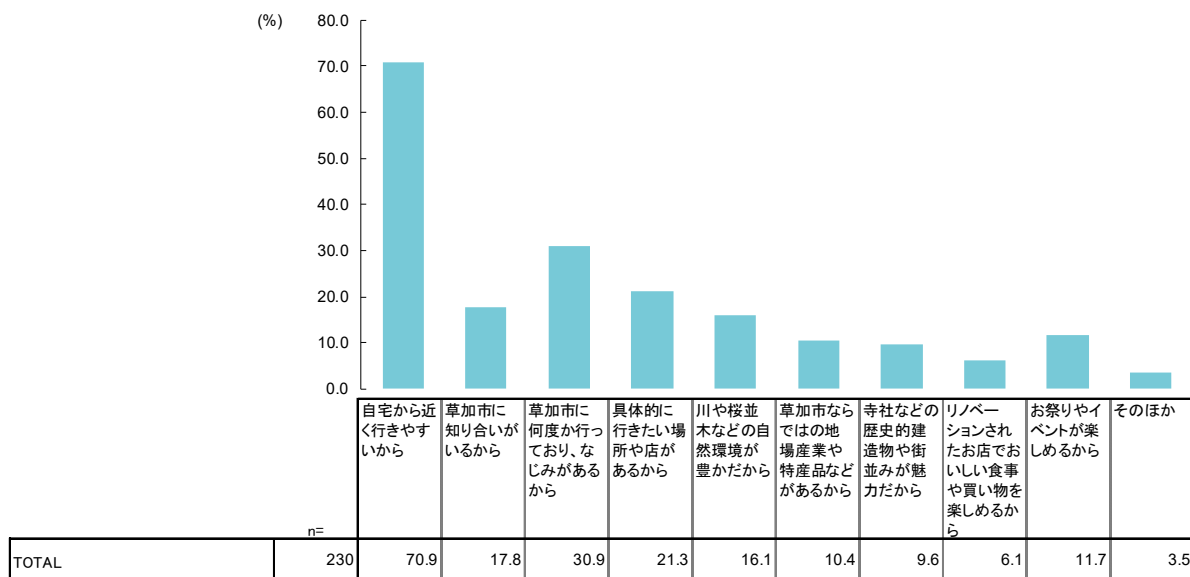
(1) アンケート調査結果から見られる主な特徴

令和4年度（2022年度）に市民や近隣市区などの住民を対象に実施したWebアンケートより、草加市の観光に関して次のような特徴が見られました。

① 「行きやすさ」から草加観光が選ばれている

草加市を訪れる理由として、市民はもとより、近隣地域（川口市、越谷市、三郷市、八潮市、吉川市）については、「自宅から行きやすいから」が約7割と最も多く見られました。コロナ禍での調査でもありマイクロツーリズムの傾向が強い結果となっています。

草加市への来訪の理由

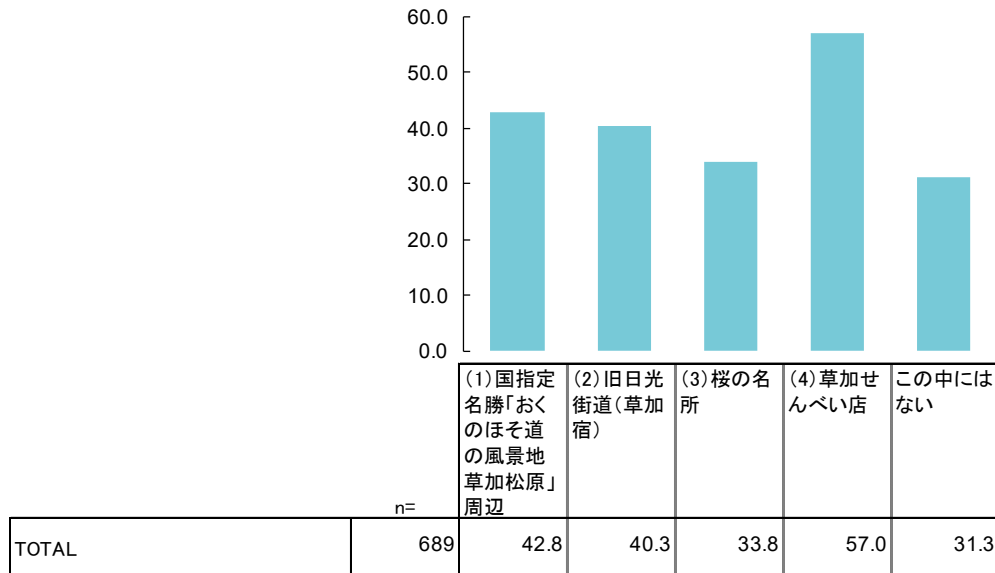


②訪問地としては、「せんべい店」「草加松原」「旧日光街道」などが人気

回答者の半数以上が「草加せんべい店」に訪れており、次いで、「草加松原周辺」や「旧日光街道（草加宿）」を訪れたことのある人が約4割と高くなっています。

訪問地のうち、印象に残ったところやおすすめの観光スポットも上記3か所が上位となっており、草加市の観光地として非常に認知度・好感度が高いことが捉えられます。

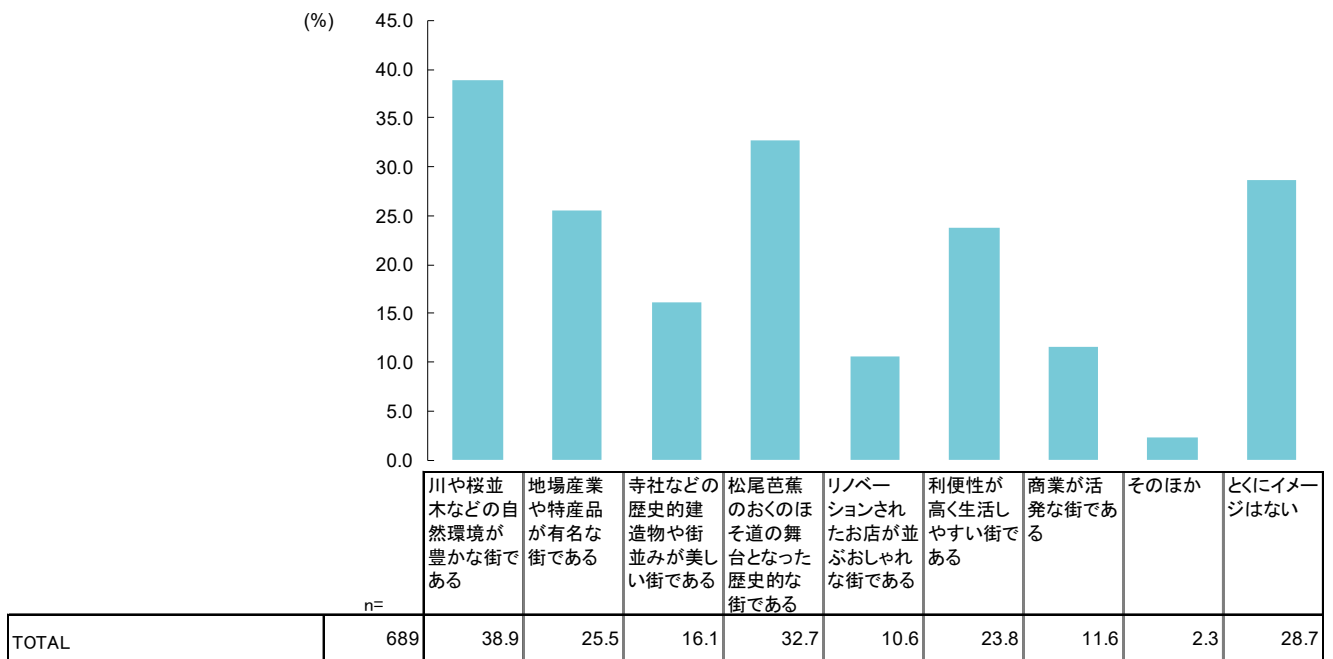
草加市内の観光スポット・イベントのうち「訪れたことがある」もの



③草加市の魅力としては、「自然環境」「歴史」的な要素が強い

草加市の魅力やイメージに関しては、川や桜並木などの「自然環境が豊かな街」が約4割と最も高く、次いで松尾芭蕉のおくのほそ道の舞台となった「歴史的な街」が約3割となっており、自然や歴史といった要素に魅力を感じている人が多く見られます。

草加市の魅力やイメージ



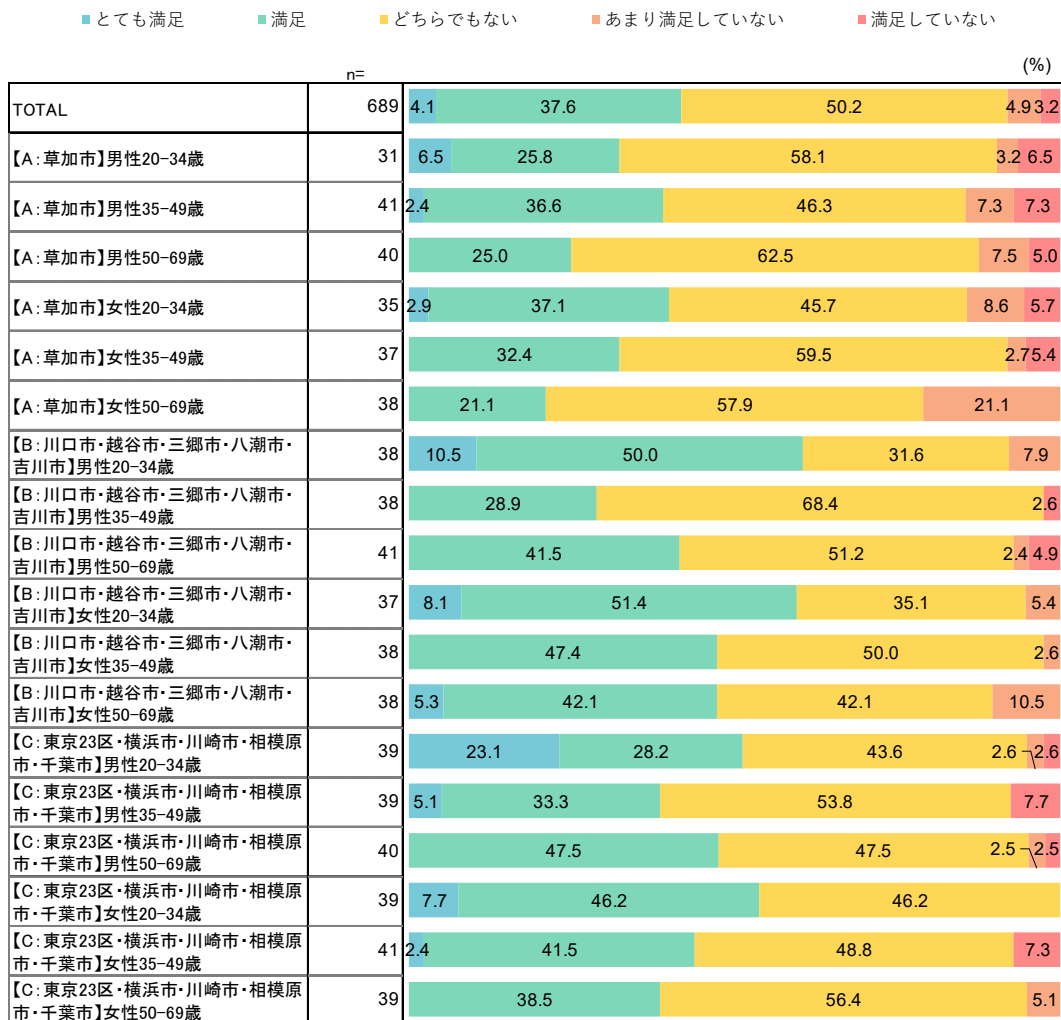
④草加観光への満足度は、若い人ほど高い傾向にある

草加市での観光・お出かけの満足度として、「とても満足」「満足」の回答は4割以上であり、「満足していない」は1割未満と少なく、全体的に草加観光を楽しんでいることがうかがえます。

草加市民においては、20～49歳の「とても満足」「満足」の回答が3割以上である一方、50～69歳の「とても満足」「満足」の回答は2割程度であり、市内観光への満足度がやや低い傾向であることがうかがえます。

来街者においては、川口市・越谷市等の近隣自治体では20～34歳の「とても満足」「満足」の回答が約6割である一方、35～49歳男性の「とても満足」「満足」の回答は、3割未満で、東京23区・横浜市等の首都圏内では、20～34歳の「とても満足」「満足」の回答が約5割で、最も低い年代の35～49歳男性でも、「とても満足」「満足」の回答が、38.6%と高い傾向であることがうかがえました。

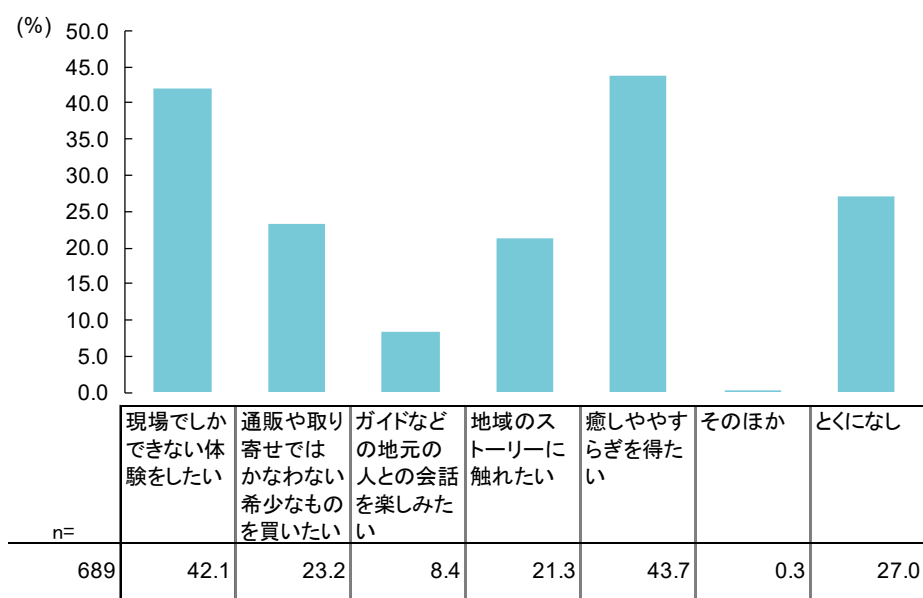
草加市での観光・お出かけの満足度（草加市民）



⑤草加観光には「癒しやすらぎ」「ならではの体験」が求められている

草加市での観光や体験に求めるものとして、「癒しやすらぎ」や「現場でしかできない体験」への回答が4割以上となっており、草加らしさを求めて訪れる人が多いことがわかります。

草加市での観光や体験に求めるもの



(2) 民間事業者・有識者ヒアリング結果から見られる主な必要とされる取組の視点

令和4年度(2022年度)、5年度(2023年度)に実施した観光関連の事業者及び有識者へのヒアリングにおいて、草加の観光に関するポテンシャルや今後の観光のあり方などについて次のような意見をいただきました。

1. 草加の観光面での良い点は、「様々なコンテンツ」「イメージをけん引する特産品」

- 草加市は県内でも強いコンテンツを持っている自治体である。
- 歴史(芭蕉、草加宿など)やせんべいなどは草加市のイメージを牽引する強力なコンテンツである。
- ノスタルジックな風景があり、それを楽しむ若い層の存在は市の財産である。
- 川越や浅草とは少し異なる歴史、文化を持っており、これらの地域と差別化した観光を展開することは可能である。
- 様々なことを受け入れてくれる市民性があり、新しいことにチャレンジしやすい環境は草加市の大きな特徴である。
- 街道沿いのまちとして多様な人を受け入れてきたDNAが息づいており、シビックプライドの骨格となるものが継承されているまちである。

2. 課題は、「ついででの楽しみがない」「観光資源間の連携不足」

- 草加松原は歩くしかなく、松原を眺めながら休憩・飲食できる場所が少ない。
- 観光資源同士の連携が足りないため、スポット型の観光にとどまってしまっている。
- ロードレースや七福神めぐりなどには多く人が訪れるが、ついででの楽しみなどがなく観光行動が広がらない。
- ナイトコンテンツがなく、来街者に泊まりたいと思わせる良い宿も少ないことは課題である。

3. 今後の展望としては、「観光による獲得目標の明確化」「リピーターを増やす仕掛け」「名物をいかしたコンテンツづくり」「連携による来訪機会づくり」

①観光による獲得目標の明確化

- 観光を通じて、どのような方向性を指すのか明確にしておくことが大切。
- 草加市のまちづくりの目標を実現するための手段として観光を活用する視点も重要。
- 草加観光のターゲットを絞って考える視点も大切である。例えば、市内、近隣自治体など。
- ターゲットを絞った重点的な施策を展開することにより裾野が広がることもある。例えば子育て層を対象とした重点プロジェクト、シビックプライドにつながる市民の活動など。
- 「子育て×草加」という視点で、草加ならではの観光を考えてみる。

②リピーターを増やす仕掛けづくり

- リピーター、関係人口を増やすためのコンテンツづくりが重要。
- ニッチな資源探すと、それらを巡るツアー。
- ビジネス客も観光客と捉え、朝や夜の時間帯に楽しんでもらう仕掛けづくりも考えられる。
- 市民による草加の魅力の再発見と発信を通じて、観光資源化していく。

- 情報の鮮度を保つことと、適切に管理することが重要である。
- 地元の人などによる「手作り感」「本物感」を感じる情報発信に対して、若者は敏感である。

③名物をいかしたコンテンツづくり

- 草加宿として体験できるものがほしい（案内、追体験など）。
- ぱりっせでのワークショップ、皮革のクラフト体験など活動系の取組。
- せんべい店のスタンプラリー、スイーツ店めぐりなどネットワークによる回遊型観光を形成していくことも大切である。
- 伝統をいかしつつ新たな魅力づけを行うことも有効である。例えば、せんべいを使ったスイーツなど新たなメニューづくり、新たな皮革製品開発。
- 漸草庵等の資源を活用した若者の取り込みの企画。
- 四季という視点で草加を捉えると、これまで気づかなかった資源の気づきが得られるかもしれない。

④連携による来訪機会づくり

- 近隣の自治体や集客拠点との連携により「ついでに立ち寄り」機会を生み出すことも大切である。
- 観光はビジネスでもあるため、連携先の良い点を草加の観光に取り込んでいく積極性も必要である。

3 本市の観光における課題

観光を取り巻く状況やアンケート調査やヒアリング調査等から、草加の観光が抱える課題として、次のような点が挙げられます。

■ 知名度の高さをいかしターゲットごとに情報を伝える工夫が必要

全国的にも知名度の高い草加せんべいや国の名勝である草加松原などの既存の観光資源の価値を高める情報発信のほか、新たな観光資源などについて、草加観光のターゲットを意識しながら効果的なPRを行っていくことが求められています。特に若者世代など「こだわり」の視点での楽しみ方を志向する層に対して、従来、観光資源として捉えられてこなかったスポットなどを発信し、新しい草加の魅力を打ち出していくことも大切です。

そのためには、観光に関する情報の収集と発信について、様々なツールを組み合わせながら有効活用することで、確実に情報を伝えていくことが必要です。

■ 訪れた人に草加を楽しんでもらうための仕掛けづくりが必要

草加市の特色ある産業である草加せんべい、浴衣染め、皮革産業を引き続きPRしながら、より魅力ある観光資源として活用するための効果的な取組が求められています。

また、観光資源へ訪れた人に「ついで楽しみ」を提供する施設、スポットの整備や観光資源の間をつなぐわかりやすいネットワークの形成など、好みに応じて多様に楽しめる仕掛けを用意することが求められています。

そのためには、市民及び来街者に対するおもてなしの拠点や情報発信スポット、案内板・サイン等の整備を推進するとともに、「草加を体験する」ことができる場や機会を創出していくことが必要です。

■ 草加への愛着を持ち、来街者へのもてなしの心を育む取組が必要

観光とは、来街者が訪れ楽しむだけのものではなく、市民が改めて草加の魅力について知る機会をつくり、理解を深めるきっかけ、気づきを得てもらうことにより、地域に愛着と誇りを持てるようにしていくことも重要な要素です。

そのためには、市民に対して草加の魅力を伝える工夫を行うとともに、観光やまちづくりに関して活動を行っている団体などの取組を支えていくことが必要です。特に、草加の観光をマネジメントするキーステーション機能の強化に向けた観光協会の体制強化と、協会を中心とする関係団体の連携による取組が重要です。

また、訪日外国人の増加を契機に、海外の観光客に草加の魅力を広く伝えるとともに、快適に訪れることができるホスピタリティを高めることも求められています。

■ 多様な主体との連携による相乗効果を発揮する取組が必要

観光に関する取組とは、行政が主体となって行うものだけではなく、民間事業者や各種団体、市民が主体的に行うとともに、相互に連携、協力しながら推進していくものです。

また、草加市だけでなく近隣の自治体と連携することにより、多様なコンテンツを提供し来街者の満足度を上げ、何度も訪れたくなるまちを目指していくことが求められます。

そのためには、民間などの活動をつなげ重層的な取組へと発展させていくための支援や、近隣自治体との連携によるテーマ型の観光コンテンツづくりなどを進めていくことが必要です。

■ 草加の観光を先導するプロジェクトの推進が必要

以上のような草加の観光に関する課題を解決し、従来の魅力の磨き上げや新たな魅力の発掘と発信を進めていくためには、観光に関する個々の施策の着実な実施と検証に基づく改善が必要となります。そのため、草加の観光を先導し個々の施策の効果的な展開を促す戦略的なプロジェクトを立ち上げ、推進していくことが必要です。

第3章 計画の基本的な方向性

第二次計画を引き継ぎつつ、観光を取り巻く現状や課題を踏まえて、本計画の基本的な考え方を次のように定めます。

1 基本理念

草加市が観光振興を進める上での基本的な理念を次のとおり設定します。

～おもてなしの心が息づく観光の実現～

2 基本目標

本計画では、市のブランド力^{りょく}アップ、すなわちまちの魅力を高めるための手段の一つとして“観光”をとらえます。

また、市外からの来街者はもちろん、「市民」も対象とし、市民が楽しめる観光を推進することで、市民による草加の魅力の情報発信が増加し、市民発の情報をきっかけとして、市外からの来街者が増加するという循環を生み出すことを目指します。

さらに、子どもや子育て世代を中心に、若者層、アクティブシニア層、インバウンドによる外国人観光客といったターゲット層を意識した施策展開を図ることで、遠方からの来街者はもちろん、市民や近隣の人たちも楽しめる観光を進めます。

◆ “知っている” まちから “行ってみたい” まちになるための観光

～草加に来るきっかけづくりと、草加の魅力を来街者に感じてもらうことで市のブランド力^{りょく}アップを目指す～

◆ 25万人の市民が楽しむことができる観光

～市民が地域に目を向けて、まちに愛着と誇りを持ってもらうことを目指す～

3 目標実現に向けた視点

まちの魅力を構成する要素である「人」「空間」「生活」「文化」の4つの視点から魅力を高め、さらにそれらが相乗効果を発揮することで、観光を入り口に「暮らしたい・暮らし続けたい・訪れたいまち」として、より魅力あるまちの実現を目指します。

◆ 「人」：草加のまちに愛着と誇りを持ち、あらゆる人に親切な「おもてなし」をできる人を育てる
⇒ 来街者と市民、市民同士のコミュニケーションを大切にした観光

◆ 「空間」：人にやさしく、楽しく、美しいまちをつくる
⇒ まちなみや風景、イベントを活用した回遊を楽しめる観光

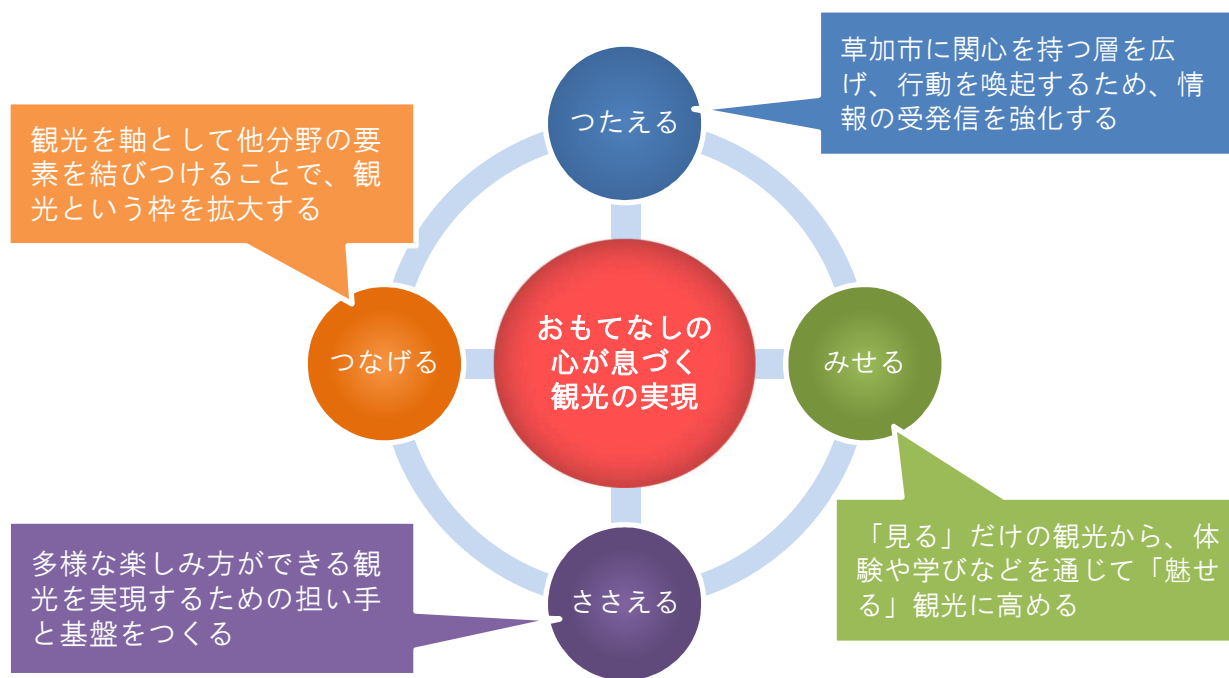
◆ 「生活」：市民の日常の暮らしの豊かさを実現する
⇒ 音楽都市「草加」やものづくりブランド等の現代産業のほか、市民生活の中に来街者にとっての魅力が点在する観光

◆ 「文化」：草加に根付いてきた歴史や文化、伝統産業などの資源を保全し、いかす
⇒ 草加の歴史の中で培われてきた資源をいかした観光

4 基本方針

基本理念、基本目標、目標実現に向けた視点からの観光の展開を踏まえ、次の体系で観光施策を推進します。

この「つたえる」、「みせる」、「ささえる」、「つなげる」の体系は、相互に関連させることで、草加市の観光の魅力をもっと高めていくことを目指します。



観光振興を進める上での体系

I “つたえる” 観光

草加市への来街者や草加ファンを増やす最初のステップは、草加市を知ってもらうことです。

「草加」という名称は「草加せんべい」によって全国区の知名度を持っていますが、そのほかにも草加市には魅力的な観光資源やイベントなどが多数あります。このため、ターゲットとなる層を意識し、対象ごとに関心のある情報をわかりやすくタイムリーに、適切な手段で伝えることで、「草加」の知名度を上げ、草加市を訪れる人や草加ファンの拡大をめざします。

情報発信の手段としては、令和4年（2022年）10月に草加駅前にオープンした草加市観光案内所を拠点としてさまざまな観光情報を発信していきます。また、情報収集のツールとしての役割が拡大しているウェブサイトやSNS、アプリは情報の即時性や拡散性が高く、誘客の大きな可能性があるため、双方向の情報提供や来街者などの口コミによる情報拡散に取り組みます。さらに、市民が自らのまちの魅力を発掘し、自分の手で情報を発信することで、まちへの愛着や誇りを育むような取組も進めます。

Ⅱ “みせる” 観光

本市には、国の名勝に指定された「草加松原」をはじめ、『おくのほそ道』や日光街道などの歴史や伝統に根ざした観光資源が数多くあるほか、年間を通じて多種多様なイベントが開催されています。

近年では、単に名所旧跡を「見る」だけの観光から、体験や学びなど、来街者のニーズに応じて多様な楽しみ方ができる体験型観光が求められるようになってきています。草加の魅力を経験し、学びを通じてより深く草加市を知っていただくことで、さらに新たな魅力を見出し、来街者を魅了する「魅せる」観光へとつなげることで、草加ファンを増やすことを目指します。

また、これまで埋もれていた資源の発掘や既存の観光資源への新たな魅力の付加などにより、さらなる魅力の向上を図ることで、草加のブランド^{りょく}力を高めます。

Ⅲ “ささえる” 観光

体験型観光では、来街者と受け入れる側との間の交流が重要な要素となります。そのため、学校を通じて幼少期から草加の歴史や文化、魅力を学ぶ機会を拡充するなど、市民一人ひとりがおもてなしの心を持って来街者に接することができるよう、観光の担い手を増やしていくことを目指します。

市内では様々な団体が観光に関連した取組を行っています。特に草加市観光協会は市の観光の中心的な役割を担っており、引き続き体制の強化を図るとともに、観光に関する他の活動団体の取組に対する支援を拡充することで、自律的に観光事業に取り組む担い手の確保に努めます。

また、目的地へのアクセスは観光振興にとって重要であることから、公共交通や自家用車、自転車や徒歩など様々な交通手段により、安全・安心で快適に移動できる環境整備を進め、草加市の観光を下支えします。

Ⅳ “つなげる” 観光

地域全体で来街者をもてなす観光は、商店、飲食店、交通事業者、宿泊業者、製造業など幅広い分野に及ぶ産業といえます。このため、まちづくりをはじめとして、市内の様々な取組や活動の中に観光の視点を採り入れ、連携していくことで、新たな観光の魅力の創出を進めます。

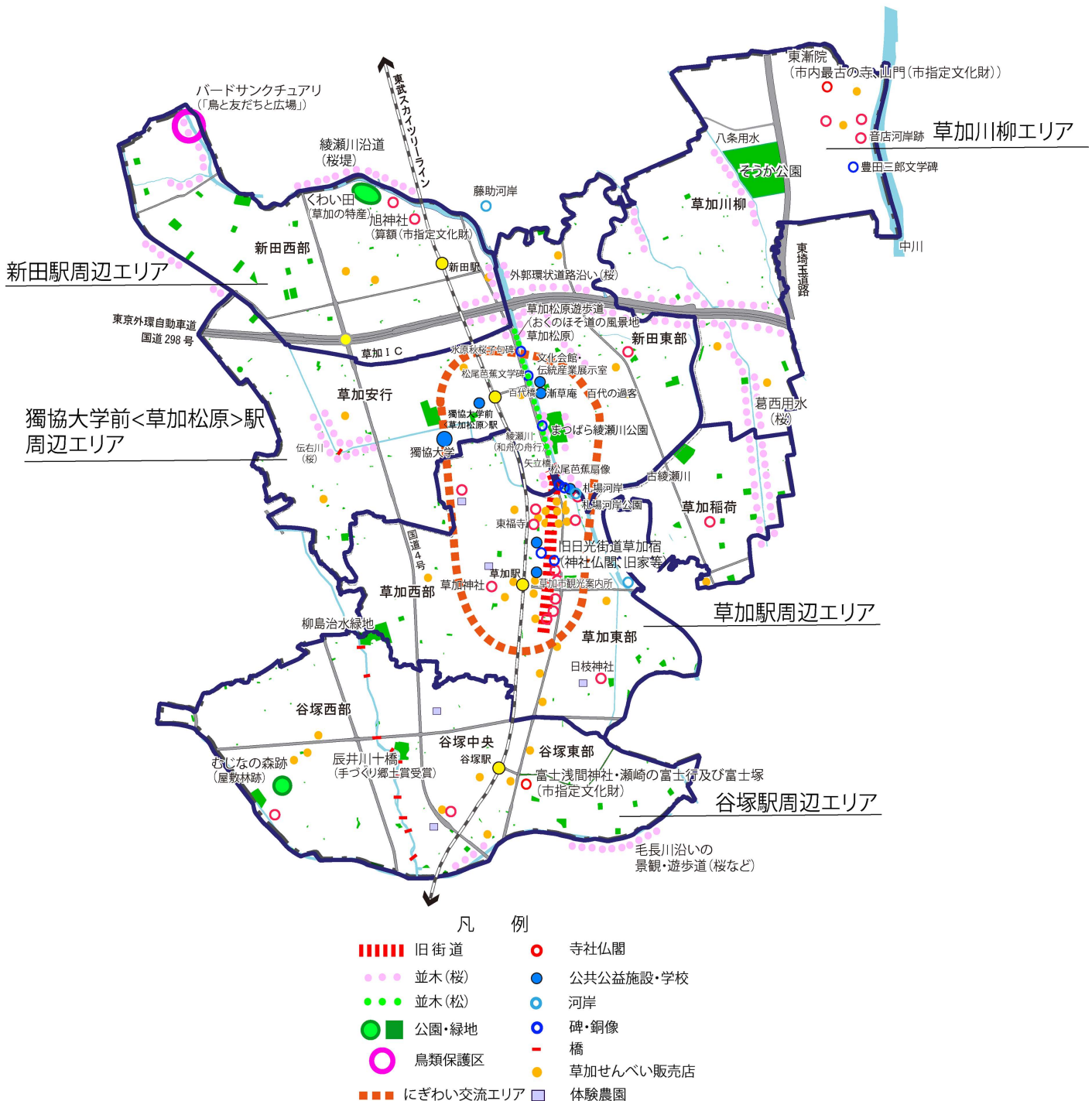
また、こうした取組を進めるためには、市内で様々な活動を行っている団体や組織間の連携が欠かせないため、情報の共有やコーディネート機能などの強化を図ることで、多様な連携が市内外で生まれることを支援します。

さらに、草加市を訪れる可能性の高い県や近隣自治体との連携、姉妹都市・友好都市との連携などに継続して取り組みます。

5 市内各エリアの特性と方向性

本市におけるエリアごとの観光を推進するため、東武スカイツリーラインの4つの駅を核とした4つのエリアに草加川柳エリアを加えた5つのエリアを設定し、地域ごとにおける観光の取組の展開を図ります。

「総合振興計画」では、地域によるまちづくり活動を推進し、地域コミュニティの維持・発展を図る必要から、まちづくりの取組に当たっては、10地区のコミュニティブロックを基礎的な単位として位置付けるとともに、草加駅周辺・獨協大学前<草加松原>駅周辺及び文化核、大学などを含む一帯をにぎわい交流エリアと位置付けています。本計画では、10地区のコミュニティブロックを基本に5つのエリアを設定するとともに、にぎわい交流エリアを位置付け、地域ごとの観光の取組を進めます。



【谷塚駅周辺エリア】 コミュニティブロック：谷塚中央地区、谷塚東部地区、谷塚西部地区

<エリアの特徴>

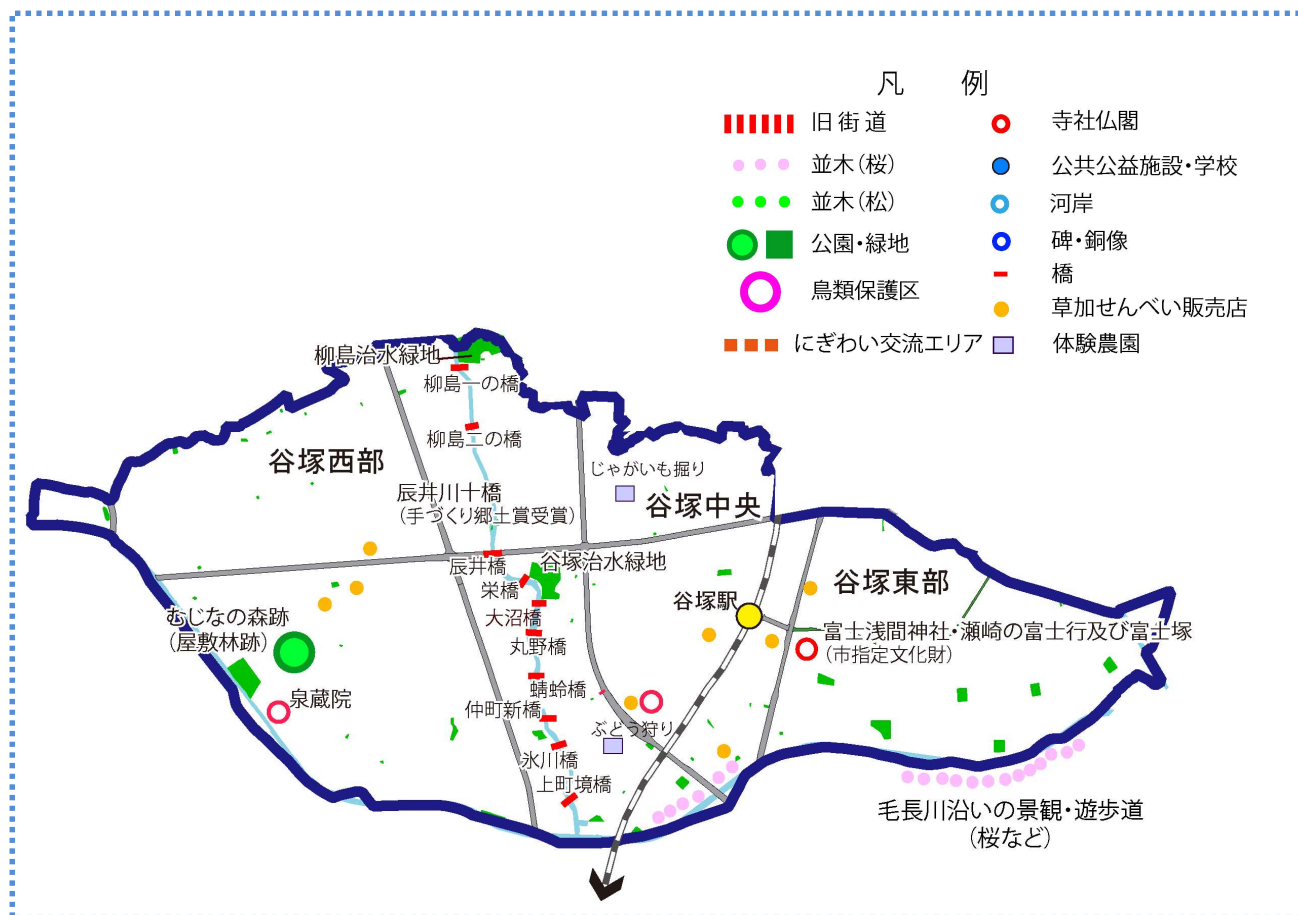
- 東京に一番近いエリアとして、草加の南の玄関口となっています。
- 近隣に日暮里・舎人ライナーが運行するなど利便性向上により、若い世代も転入しています。
- 浅間神社、毛長神社、泉蔵院などの歴史ある神社仏閣があります。
- 毛長川や辰井川などの水辺空間は、地域住民の散歩道ともなっており、住民の活動により植栽活動なども行われています。
- ぶどう狩りができる観光農園や野菜の直売所があり、収穫体験ができる場所もあります。

<主な地域資源>

- 富士浅間神社、瀬崎の富士行及び富士塚、泉蔵院、
- 毛長川沿いの景観・遊歩道（桜など）、辰井川十橋
- 谷塚治水緑地、柳島治水緑地
- 観光農園（ぶどう狩り・じゃがいも掘り）

<方向性>

- 毛長川、辰井川の水辺空間と、神社仏閣などの歴史文化を軸として、地域資源のPRや近隣地域との連携の可能性を探ります。
- 文教大学との連携の可能性を探ります。
- 谷塚駅西口のまちづくりと連携した観光施策を検討します。



【谷塚駅周辺エリアの主な地域資源】



毛長川沿いの景観・遊歩道（桜など）



ぶどう狩り



富士浅間神社本殿（市指定文化財）



瀬崎の富士行及び富士塚（市指定文化財）



泉蔵院六地藏石仏（市指定文化財）



泉蔵院十三仏（市指定文化財）



辰井川十橋（栄橋）



辰井川十橋（氷川橋）

【草加駅周辺エリア】 コミュニティブロック：草加東部地区、草加西部地区、草加稲荷地区

<エリアの特徴>

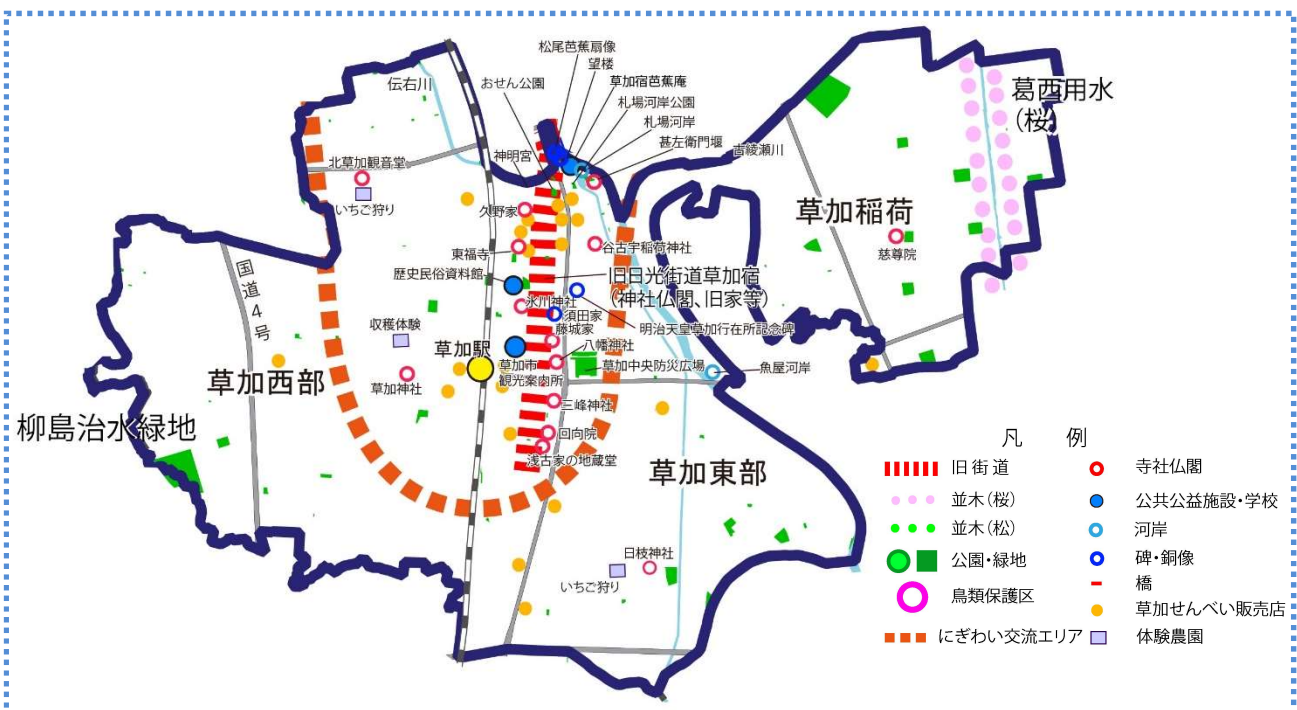
- 草加の中心的な拠点として、市役所や市立病院などが立地し、商業施設も充実しています。
- 駅東口付近には草加市観光案内所が立地しており、草加の観光情報発信の拠点があります。
- 旧日光街道の草加宿の雰囲気が残っており、草加せんべいのお店も多数店を構えています。
- 葛西用水は市民の親水性のある憩いの場所となっており、特に桜の時期は花見客の人気スポットです。
- イチゴの観光農園や野菜の直売所があり、収穫体験もできる場所があります。

<主な地域資源>

- 歴史民俗資料館（国登録有形文化財）、藤城家住宅店舗・内蔵・外蔵（国登録有形文化財）、須田家住宅（中屋）土蔵（国登録有形文化財）、久野家住宅店舗（国登録有形文化財）、草加宿芭蕉庵、望楼、東福寺、八幡神社、草加神社、日枝神社、甚左衛門堰（県指定文化財）、慈尊院
- 宿場まつり（旧日光街道）、七福神めぐり、草加よさこいサンバフェスティバル、草加さくら祭り、草加 Welcome Festival
- 旧道を中心とした草加せんべい店、草加市観光案内所、駅前の商業施設
- おせん公園（河合曾良像）、葛西用水（和舟の舟行、桜の時期の集客）、観光農園（いちご狩り）、柳島治水緑地

<方向性>

- 国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」の縁をいかして、日光街道の文化と宿場町の伝統を軸とした観光施策を推進し、魅力のある観光資源を育成します。
- NPO 法人今様草加宿との連携による宿場町の雰囲気をいかした取組を充実させます。
- 路線バスを活用して、葛西用水方面への回遊及び川口方面（県央地区）からの来街者の誘致を図ります。
- 遊休不動産を活用した民間主導・公民連携のリノベーションまちづくりによる都市型産業の集積を図り、来街者の増加、にぎわいの創出を目指します。



【草加駅周辺エリアの主な地域資源】



草加市観光案内所



札場河岸公園（望楼・草加宿芭蕉庵）



歴史民俗資料館（国登録有形文化財）



旧道を中心とした草加せんべい店



藤城家住宅店舗・内蔵・外蔵（国登録有形文化財）



草加宿場まつり



葛西用水沿い桜並木



草加宿七福神めぐり

【獨協大学前<草加松原>駅周辺エリア】 コミュニティブロック：草加安行地区、新田東部地区

<エリアの特徴>

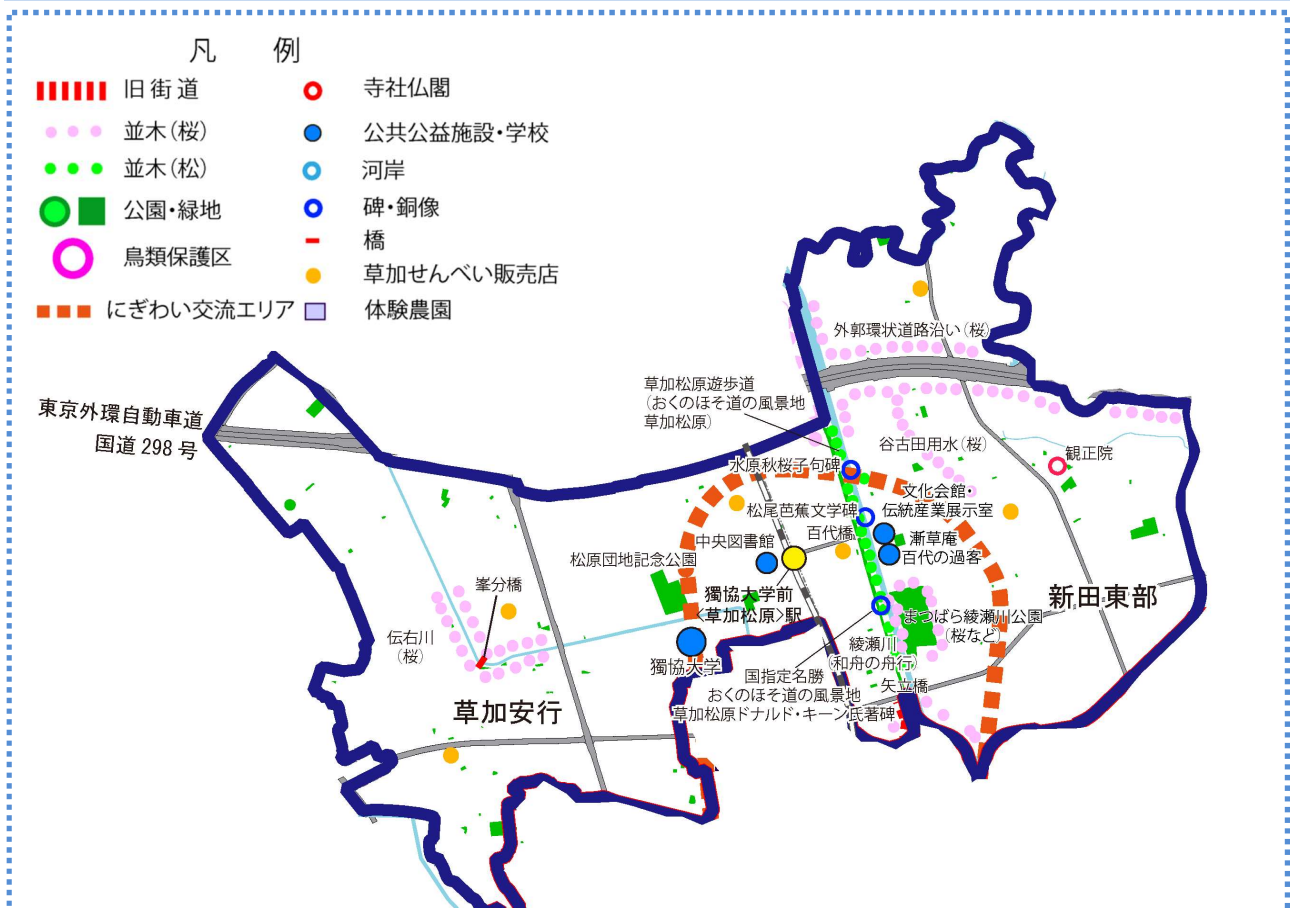
- 国の名勝となった草加松原、綾瀬川や伝右川の親水空間など有数の地域資源が点在しています。
- 大規模な建て替えが進められているコンフォール松原があり、獨協大学が立地しています。
- 草加安行には、伝右川の桜並木があります。

<主な地域資源>

- 草加松原（松並木）、和舟の舟行
- 文化会館、漸草庵 百代の过客、伝統産業展示室、中央図書館、獨協大学
- 綾瀬川、古綾瀬川、伝右川、谷古田用水
- 札幌河岸公園（松尾芭蕉翁像）、まつばら綾瀬川公園、松原団地記念公園
- 草加ふささら祭り、商工会議所まつり、雄飛祭（獨協大学）、草加朝顔市、草加松原夢祭り、国際ハーブフェスティバル、草加国際村一番地 国際交流フェスティバル、春の子どもフェスタ、草加市農業祭

<方向性>

- 国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」を軸とした来街者誘致に向けた観光施策を推進します。また、体験型を含めた多様な観光資源をつなげることで観光推進を図ります。
- 文化核・にぎわい交流エリアとして、イベントやコンサートを活用した取組でにぎわいの創出を進めます。
- 獨協大学<草加松原>駅西側地域のまちづくりに併せて、獨協大学やUR都市再生機構、東武鉄道などの民間事業者と連携した観光施策を進めます。
- 伝右川を軸に、草加宿から草加安行地区までの回遊性を高め、近隣エリアとのつながりを強めていきます。



【獨協大学前<草加松原>駅周辺エリアの主な地域資源】



国指定名勝
「おくのほそ道の風景地 草加松原」



草加ふささら祭り



国際ハープフェスティバル



伝統産業展示室「ぱりっせ」



まつばら綾瀬川公園



漸草庵 百代の过客



和舟の舟行



草加朝顔市



谷古田用水沿い桜並木

【新田駅周辺エリア】 コミュニティブロック：新田西部地区

<エリアの特徴>

- 駅前での面的整備を促進しているエリアであり、アクセス路整備による利便性の向上が期待されています。駅東口には昭和のレトロな雰囲気が残る庶民的な一角が残っています。
- 綾瀬川沿道の桜堤、バードサンクチュアリなどの自然資源を有しています。
- 野菜の直売所があります。

<主な地域資源>

- 旭神社、宝積寺、天満宮
- バードサンクチュアリ、綾瀬川沿道の桜堤、くわい田 など

<方向性>

- 綾瀬川の桜堤等の地域資源のPRを促進することにより、集客を図ることを目指します。
- 国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」からの回遊性を高めることで、近隣エリアとのつながりを強めていきます。
- 新田駅東口及び西口の土地区画整理事業と連携した観光施策を検討します。



【新田駅周辺エリアの主な地域資源】



綾瀬川沿道（桜堤）



綾瀬川沿道（桜堤）



外郭環状道路沿いの桜



宝積寺



くわいの収穫



バードサンクチュアリ



旭神社



旭神社算額（市指定文化財）

【草加川柳エリア】 コミュニティブロック：草加川柳地区

<エリアの特徴>

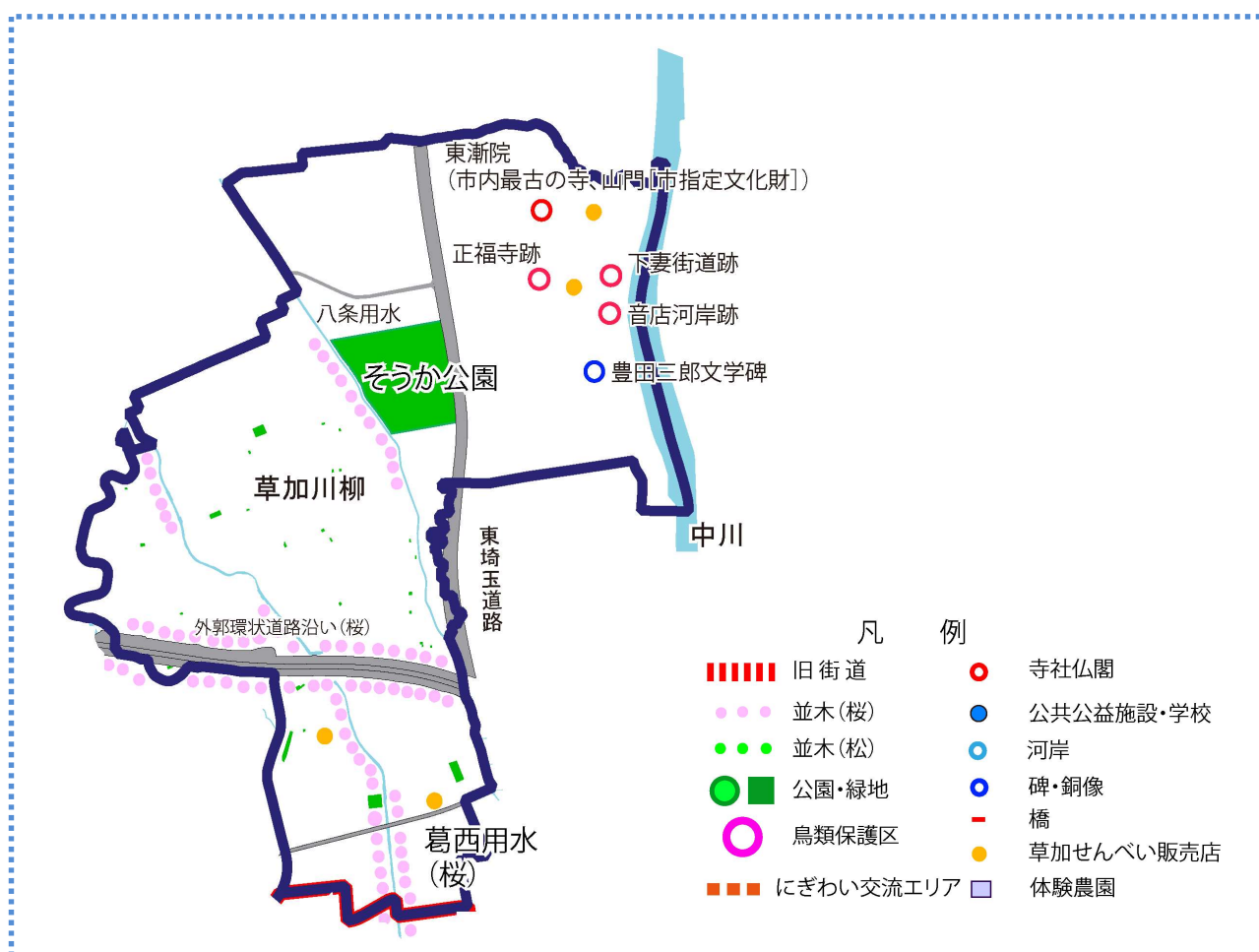
- 市内最大のそうか公園を有し、柿木地区など田園風景が広がる市街化調整区域も一部含まれています。
- 古綾瀬川、葛西用水や八条用水などの水路が広がっています。
- 野菜の直売所があります。

<主な地域資源>

- 市内最大のそうか公園
- そうか公園まつり、市民納涼大花火大会
- 古綾瀬川、葛西用水、八条用水
- 豊田三郎文学碑、東漸院（市内最古の寺、山門、板碑型六地藏[市指定文化財]）、音店河岸跡、下妻街道跡、正福寺跡など

<方向性>

- そうか公園のリニューアルを契機に、そうか公園を拠点とした集客を図る取組を目指します。
- 草加稲荷地区と連携して、葛西用水の来街者の集客を図る取組を目指します。
- 田園風景が広がり、歴史文化を有する柿木地区の特性をいかした取組を目指します。
- 草加柿木地区産業団地及びスポーツ推進地区と連携した観光施策を検討します。



【草加川柳エリアの主な地域資源】



そうか公園



そうか公園まつり



八条用水（そうか公園脇桜並木）



市民納涼大花火大会



東漸院（市内最古の寺、山門[市指定文化財]）



板碑型六地蔵（[市指定文化財]、東漸院）



万治二年板碑型六地蔵
（[市指定文化財]、正福寺跡）



豊田三郎文学碑

第4章 具体的な施策

計画の基本的な方向性を踏まえて施策（推進計画）及びアクションプランを定め、具体的に施策を展開します。

1 施策の体系

4つの基本方針に基づき、施策（推進計画）を定めます。

【基本方針】

【施策(推進計画)】

I “つたえる” 観光

- (1) 草加市の魅力を伝える情報の提供
- (2) ターゲット層を意識した情報の提供
- (3) 多様なツールを活用した情報の受発信

II “みせる” 観光

- (1) 参加してみたいくなるイベントの充実
- (2) 草加らしい体験型観光の充実
- (3) 来てみたいくなる新たな魅力の創出

III “ささえる” 観光

- (1) 観光をささえる人づくり
- (2) 観光をささえる活動の支援
- (3) 観光をささえる基盤づくり

IV “つなげる” 観光

- (1) 横断的な連携による魅力向上
- (2) 団体同士の連携による観光の活性化
- (3) 広域的な連携による交流の促進

2 施策の展開（推進計画・アクションプラン）

施策の体系に基づく施策の詳細とともに、各施策に対応するアクションプランを紹介します。

I “つたえる” 観光

（1）草加市の魅力を伝える情報の提供

本市では、草加せんべい、浴衣染め、皮革などの伝統産業や、草加松原をはじめとする魅力のある資源が点在しています。また、市内では年間を通じて数多くのイベントが行われています。

こうした草加市の魅力を、市民も含めたあらゆる人を対象として、テーマや訪れるタイミングなどを基準にして整理することで、わかりやすく伝えます。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①観光資源やイベント、伝統産業の情報の発信	・草加市の観光資源や市内で開催されているイベント、伝統的な祭事、草加せんべいの手焼き体験やレザークラフト教室、浴衣の注染講座などの伝統産業を紹介するイベントや展示を魅力ある観光資源として効果的に発信します。
②テーマ別に分類した情報の発信【新規】	・年間イベントスケジュールや、「観る」「食べる」「歩く」などテーマごとに情報を分類して市内外に発信します。
③タビマエ・タビナカ・タビアト情報の充実	・市民や来街者にとっての、草加市の訪問前にほしい情報（タビマエ情報）、訪問中にほしい情報（タビナカ情報）、訪問後の振り返りにほしい情報（タビアト情報）を整理し、これら3種類の情報内容を充実させます。

(2) ターゲット層を意識した情報の提供

人の興味や関心によって、必要とする情報は異なります。このため、市民を含め、子どもから高年者、外国人など様々な人たちの興味や関心に応じて、草加市を楽しめる情報を的確に提供することで、さらに多くの人に草加市の魅力を感じてもらい、一回の来訪からリピーターになり、草加ファンになってもらうことを目指します。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①ターゲットに合わせた観光資源の整理・紹介	・「若年層」「カップル」「子連れファミリー旅」「ソロ旅」「アクティブシニア」「外国人観光客」「ビジネス客」などターゲット層及び来訪目的に応じて、一人でも多くの方に草加の魅力が伝わり、イベントへ参加してもらえるよう情報を伝えます。
②県内からの来訪者を増やすための情報発信 【新規】	・遠くの場所より県内からコンスタントに来訪があるよう、適切な場所でのチラシ配架や出向宣伝など、県内に力点において情報が届くように情報発信を工夫します。
③草加ファンやフォロワーの拡大 【新規】	・草加市に関心を持ち、気にかけてくれる草加ファンやフォロワーを増やしていきます。

(3) 多様なツールを活用した情報の受発信

情報通信技術の進歩により情報発信や伝達手段は多様化しており、今後もさらに進化していくことが想定されます。

そのため、令和4年(2022年)にオープンした草加市観光案内所を拠点としたこれまでの情報発信にさらに力を入れることに加えて、年代や国籍を問わず幅広く活用されているSNS等を通じた情報発信の強化を図るほか、市民や来街者が情報発信したくなる仕組みづくりを進めます。

主な取組(アクションプラン)

アクションプラン	概要
① 様々な情報発信ツールを活用した観光情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報そうか、市ホームページ、SNS、マスメディア等の様々な情報発信媒体を活用し、市民や来街者、外国人観光客など多様な方に届くよう情報を発信します。 ・ 草加市観光協会をはじめとした関係団体の情報発信を支援します。 ・ 情報発信に当たっては、情報のばらつきや漏れを防ぐため、一次情報を発信する「ハブ」を決め、情報の一元化を進めます。
② 観光マップや観光情報紙を配布した草加の魅力のPR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様化する旅行目的や観光のニーズに合致するパンフレットやチラシ、手軽に持ち歩けるまち歩きマップ等を作成し、それらを簡単に入手できるように草加市観光案内所等の情報発信の拠点で配布します。 ・ 新たに草加市に転入されてきた方に対し、転入手続等の機会に観光マップ等を配布し、草加の魅力をPRします。
③ 案内板などを活用した草加の観光資源の見える化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内板や草加お宝かるた、ポストカードなどで、草加の観光資源について広く紹介し、紹介にあたっては二次元コード等を活用するなど、調べる楽しみやストーリーを楽しんでもらえるよう工夫を凝らし、観光資源の見える化を進めます。
④ 草加市観光案内所を活用した観光機能の充実【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民や来街者が気軽に情報を入手できるように草加市観光案内所の案内体制の向上・充実を図ります。 ・ 子育て支援コーディネーターなどと連携を図り、子ども、子育て世代に魅力的な観光情報の提供を行います。
⑤ ICTなど新しい技術を活用した観光情報の発信【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTなどデジタル技術の活用により社会経済データの収集、分析を推進し、それらのデータの活用により効果的に観光情報を発信するとともに、観光情報を検索した際に草加市の情報が多くの方の目に留まるような工夫を検討します。
⑥ 草加の有名人や観光大使、宣伝隊長等の力を活用した草加の魅力のPR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草加市出身の文化人や芸能人を始めとする各界の著名人や、草加市観光大使、そうか宣伝隊長の力を借りて、草加の魅力を高めるための広く情報発信を行います。
⑦ 市民が自ら発信する情報の充実【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「暮らす人」が自ら草加市の魅力を発掘し、SNSなどを活用して発信する取組の支援を行います。

Ⅱ “みせる” 観光

(1) 参加してみたくなるイベントの充実

市内では年間を通じて多くのイベントが実施されており、多様な世代の人が訪れています。こうした一つひとつのイベントの魅力を高めるほか、それぞれのイベントを連携させることで、宣伝や集客、運営面での相乗効果の発揮をめざすとともに、スポーツイベントや子どもを対象としたイベントなどの取組を支援します。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
① 来街者を魅了するイベントの実施	・ ふささら祭り、宿場まつり、花火大会、草加さくら祭り、よさこいサンバフェスティバル、朝顔市、和舟の舟行、七福神めぐり、イルミネーション、草加松原のライトアップなど観光資源として魅力ある市内の様々なイベントの運営面での支援を行います。さらに、それぞれのイベントの効果的な連携による魅力度の向上について検討を進めます。
② 音楽都市「草加」らしいイベントの実施	・ 国内最大級のハープの祭典である「国際ハープフェスティバル」を始め、市民音楽祭などのイベントや、市内各音楽団体が主催する音楽イベントは草加らしさを代表する観光資源でもあるため、身近に音楽が聞こえる「音楽の森ミニコンサート」の開催など、広く音楽都市「草加」ならではの取組を進めます。
③ 草加松原を観光資源としたイベントの実施 【新規】	・ 市の重要な観光資源である国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」に、多くの方に訪れてもらえるよう、集客のための取組やイベントを実施するとともに、それらの連携を図ります。
④ スポーツでにぎわうイベントの実施	・ 草加松原遊歩道、そうか公園、各種スポーツ施設などの資源をいかし、市内の相撲部屋などの団体等と連携するなど、スポーツやレクリエーション、健康づくりなどに関する取組を実施及び支援します。
⑤ 子どもが楽しめるイベントの実施 【新規】	・ 乳幼児を含めた子どもやその保護者が周りに気を遣わない「子どもが楽しめる・子どもと楽しめる」イベントを実施し、幼少期から草加の魅力に触れる機会を増やします。

(2) 草加らしい体験型観光の充実

草加せんべいなどの伝統的な産業品、職人技が光るユニークな工業製品、都内の有名料理店に卸されている枝豆など、草加らしさを感じさせる数々の産業資源が市内にはあります。また、平成 28 年（2016 年）に始まった和舟の舟行は、草加の代表的な体験型観光として親しまれており、令和元年（2019 年）には日本の伝統文化を伝える和の施設として「漸草庵 百代の過客」がオープンしました。

こうした草加の歴史資源や地場産業などの観光資源を活用し、それらを気軽に体験するプログラムを充実させることで、多くの人に草加を訪れ、知り、魅力を感じてもらうことを目指します。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①地場産業のものづくり体験の拡充	・草加ならではのせんべい手焼き体験や、皮革などの草加の伝統的なものづくり体験を多くの人を経験できるよう、施設開設も含めて、支援の在り方を検討します。
②和舟の舟行の推進	・綾瀬川や葛西用水で始まった和舟の舟行の魅力づくりを引き続き行うため、実施する団体に対し、運営、PR、環境整備などの面で支援を行います。
③「漸草庵 百代の過客」を活用した和の体験の創出 【新規】	・日本の伝統文化の発信施設である「漸草庵 百代の過客」を活用して、茶道体験や呈茶、施設見学により、外国人観光客を含む多くの人に、日本の伝統文化を知ってもらう和の体験ができる取組を進めます。
④ものづくり体験ツアーの開催支援	・市内の特色のある町工場や事業所、農家を巡るツアーなど、魅力ある産業観光資源を活用した取組の支援を行います。
⑤草加を再発見する農業体験の開催	・子どもから大人までが参加できる市内の農家での収穫体験の機会をつくるとともに、庭先販売による市民と農家との交流の場づくりや観光農園の開設、市内農産物を使った料理教室など参加型の取組を進めます。

(3) 来てみたくなる新たな魅力の創出

既存の資源の魅力をさらに高めていくとともに、これまで見過ごされてきた資源の再発見や新たな魅力ある資源の創出などを通じて、草加市を訪れるリピーターや草加ファンが増加することを目指します。また、草加市を訪れた人が草加の魅力を満喫できるようなプログラムやアプリの開発により、丸一日楽しめる観光地づくりを目指します。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①既存資源の磨き上げによる魅力の向上 【新規】	・既に身の回りにありながら、これまで見過ごしてきた様々な資源を掘り起こして、新たな価値を与え、それらを上手に情報発信することで、魅力的な観光資源として磨きあげ、草加市の観光の魅力の底上げや新たなコンテンツの創出につなげます。
②多様な体験型観光の展開 【新規】	・アウトドアツーリズム、スポーツツーリズム、ヘルスツーリズム、エコ・グリーンツーリズム、フードツーリズム、ナイトツーリズムなど多様でニッチ化するニーズに合わせて、多様な観光資源の展開の検討を進めます。
③ストーリー仕立てで魅力の向上	・観光資源について、そのいわれや関連したエピソード等を分かりやすくストーリー仕立てにすることにより魅力度を高めます。
④「草加らしい四季」の魅力の活用	・国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」や市内の桜の名所、季節によって姿が変わる様々な自然を活用し、「草加らしい四季」を観光資源として磨き上げます。
⑤滞在時間向上につながる仕組みの構築 【新規】	・滞在時間を延ばすために、市内の各施設を一日や半日かけて巡るモデルコースやスタンプラリーの企画、レンタサイクルやバスを活用した取組などにより、より長く市内に滞在してもらえる仕組みを構築します。
⑥ロケーションを活用した知名度アップ	・テレビドラマ、映画やアニメなどで登場した場所は知名度が向上し、外国人観光客を含め新たな観光客が訪れる期待が大きいことから、ロケーションを活用した取組を進めるとともに、フィルムコミッションについての検討を行います。
⑦観光アプリ等を活用した新たな魅力の創出 【新規】	・草加市の観光をより楽しんでもらえるよう、観光資源やイベント等の紹介だけでなく、移動手段の検索や現在地からのおすすめ情報、住民からの情報提供やスタンプラリー、クーポン、VR 機能なども含めた観光アプリ等の活用を検討します。

Ⅲ “ささえる” 観光

(1) 観光をささえる人づくり

本市の観光は観光産業だけでなく、多くの市民のおもてなしの心や、市の良いところを多くの人に知ってもらいたいという気持ちによっても支えられています。

このため、子どもから大人までの市民が市の歴史・文化への興味・関心を持てるよう、学習機会の拡充を図り、さらには自らが草加市の魅力を発信することを支援することで、草加市に愛着と誇りを持った市民の育成を図ります。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①市民の観光への関心・興味の醸成 【新規】	<ul style="list-style-type: none">・観光や歴史、文化といった自分が暮らす街の魅力を理解し、愛着を持ってもらえる市民を増やし、草加の魅力を発信するサポーターを育成するため、市民に対する観光PRや学習機会の提供、情報発信や観光資源のコンテストなどを通して、観光意識の向上やまちへの愛着形成を図ります。・市民一人ひとりが草加の魅力を発信することを促進するため、情報発信ツールであるSNSの使い方など必要な情報を積極的に提供します。
②まちかど観光案内所の情報発信力の向上	<ul style="list-style-type: none">・まち歩きマップや観光情報など、誰でも観光案内人になることができる取組として、草加せんべい店や商店などの事業者に“まちかど観光案内所”として観光情報の発信やPRに協力をしてもらう取組を進めます。
③市内小・中学校における観光教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・市内の小学校、中学校において、草加市の歴史や文化、観光資源について学ぶ機会を設ける取組を進め、草加の街に興味関心を持ってもらい、次世代の観光を支える人材を育成します。

(2) 観光をささえる活動の支援

草加市観光協会は市内事業者や行政等と連携し、本市の観光振興に大きな役割を果たしていることから、その取組が効果的に進められるよう支援を行います。

また、「草加宿案内人の会」、「草加宿神明庵運営協議会」などのボランティア団体や、その他の市内で観光に関する活動を行っている各種団体の主体的な活動が進むよう、支援を行います。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①草加の観光を担う草加市観光協会の事業推進の支援 【新規】	・草加の観光を担い手である観光協会の実施すべき事業の支援・整理を進め、組織を強化するための検討を進めます。
②観光案内人やお休み処などによる草加宿ならではのおもてなしの支援	・草加宿案内人の会や草加宿神明庵運営協議会などの市民ボランティア団体と連携しつつ、活動を支援することにより、草加宿や草加松原などの歴史文化や日光街道・『おくのほそ道』とのゆかりを伝えるおもてなしの取組を推進します。
③市内の商店会の活動の活性化の支援	・多くの市民や来街者に楽しんでいる市内の各商店会主催のにぎわいづくりのイベントを魅力ある観光資源として支援します。 ・市内の商店街などの団体が日常的に行うにぎわい創出やまちの魅力向上に資する取組の支援を行います。
④多様な市民団体が自主的に行う活動の支援 【新規】	・市内の各種団体が実施するにぎわい創出に資する取組について、後援を行ったり、市の情報発信媒体でPRするなどの支援を行います。

(3) 観光をささえる基盤づくり

いくら魅力的な観光資源があっても、目的地までのアクセスが悪ければ、多くの人に訪れていただくことは難しくなります。このため、駅からの二次交通の充実はもちろん、大型バス等での移動環境の向上や、情報通信技術を活用した乗り継ぎ利便性の向上、徒歩や自転車などで楽しみながら回遊できる空間形成等を進めることで、安全・安心で快適な移動をささえるまちづくりを推進します。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①安全・安心・快適な観光環境の向上 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・高年者、障がい者、乳幼児を連れた家族などあらゆる人に対応するため、観光案内機能や交通の充実、ユニバーサルデザインを採り入れた観光施設の充実など、観光客が安心安全、快適に観光できる環境づくりに取り組みます。 ・将来に魅力ある観光資源を残していくため、自然や環境の維持保全に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症などの災害にも臨機応変に対応できる安全安心で、持続可能な観光を支える環境整備にも取り組みます。
②身近な交通手段の特性をいかした訪れやすい・過ごしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源を二次交通で結び、地域の新たな魅力の発見に寄与するとともに、バスが停車する公共施設や店舗等のスペースを有効活用するなど、市外からの観光客が観光資源を移動しやすい環境づくりを進めます。 ・マイカー利用者も楽しめるように、パークアンドライドやカーシェアリングの活用促進などの取組を行うとともに、大型バスが駐停車可能な場所の整理、検討を進めます。
③移動・周遊の向上に資する交通対策の推進 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段、周遊手段の確保と利便性の向上に向けて、公共交通の利用促進を図ります。 ・デジタル技術等を活用した交通情報の提供や、将来的なMaaSなど新たなサービスの実現など、観光促進のためのモビリティサービスの検討を行います。
④にぎわい創出に向けた公園等の公共空間の運用 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・そうか公園・まつばら綾瀬川公園・松原団地記念公園等の広い公園や駅前広場等の公共空間をイベント時の出店・誘致や来訪者の増加に資するよう運用を拡充していきます。
⑤歩いて楽しいまちづくりと連動した観光の振興 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の整備事業等と連動して、歩道や広場、案内板、休憩施設の整備などにより、時間消費のできる、歩いて楽しめるウォーカブルなまちづくりを進めます。 ・新しい移動手段やシェアリングサービスなどの社会実験等の取組を活用し、市内の回遊性を高め、滞在時間の向上を目指します。

IV “つなげる” 観光

(1) 横断的な連携による魅力向上

景観・文学・飲食・買い物など、観光以外の要素と観光との連携を強化することで、草加市の観光の魅力向上や、観光への入り口の多様化などを進めます。また、空き家や空き店舗の活用、地域のまちづくりと連携して、まちの活性化や魅力向上による観光促進を図り、草加市を訪れる人の増加につなげます。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①景観づくりで観光の演出	<ul style="list-style-type: none">・ 良好な景観は来街者がまち歩きを楽しむ大きな魅力であるため、来街者が楽しみながらまち歩きができるようにまちの価値を高める景観づくりや保全を進めます。・ おくのほそ道の風景地として国の名勝に指定された草加松原を景観の重点地区として、整備・保存・管理に努めます。
②『おくのほそ道』との縁をいかした観光資源の創出	<ul style="list-style-type: none">・ 松尾芭蕉が『おくのほそ道』に旅立ちした日のお身拭いや講話、「奥の細道文学賞」、草加の和の文化を発信するための施設「漸草庵 百代の過客」を観光資源とする取組を進めます。
③イベント連携による相乗効果の活用 【新規】	<ul style="list-style-type: none">・ ストーリーやテーマに関連する観光資源をつなぎ回遊してもらったり、イベント終了後に立ち寄ってもらえるよう、市内の飲食店や商店とタイアップするなど、これまで個々にとらえていたイベント等連携を図ります。その相乗効果により、さらに魅力を創出させ、周遊の促進や来訪満足度の向上に取り組めます。
④開発等と連携した観光の推進 【新規】	<ul style="list-style-type: none">・ 空き家等を活用したリノベーションや市街地開発等と連携して、エリアの魅力向上による観光促進を図ります。・ 公民連携の考え方を踏まえ、事業者等にもメリットが感じられる取組、仕組みを検討し、地域の魅力創出について検討します。

(2) 団体同士の連携による観光の活性化

観光に関連する取組を行っている団体や事業者、小売店、飲食店などとの連携を進めることで、誘客につながるPR活動やイベントの運営、新たな企画開発や地域の魅力創出などを促進します。また、大学をはじめとする教育機関と連携することで、若い柔軟な発想による取組を生み出すなど、観光の活力向上をめざします。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①観光に関連する各種団体との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・草加市観光協会、草加商工会議所、草加市商店連合事業協同組合や各商店会、市内事業者、町会、市民団体、教育機関、行政など市内の観光に関わる様々な主体が相互の交流を図りつつ、本市の観光に関する情報交換や連携ができるような取組を進めます。 ・鉄道沿線でのPR活動やイベントの企画運営などを通して、公共交通機関との協力体制を強化します。
②企業、事業者との連携強化による新たな企画開発や地域の魅力創出の検討 【新規】	<ul style="list-style-type: none"> ・草加ならではの食材を使った食やグルメの再発見、企業や事業者と連携した商品開発、草加産食材を使った飲食店の拡大など、草加市の特産品をいかした魅力の創出・拡充に取り組みます。 ・商店や飲食店、メーカーだけでなく、鉄道事業者や宿泊事業者、交通事業者等とも連携して誘客につながる企画開発を促進します。
③教育機関等との連携による観光の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校、高校、大学などの教育機関は教育に関するノウハウや専門的な知識を有しているほか、柔軟な発想力を持った若い学生が在籍していることなど、草加の観光を推進する上で重要なパートナーであることから、このような強みを持っている教育機関と連携を進めることで観光面での魅力向上を図ります。

(3) 広域的な連携による交流の促進

県や近隣自治体等と連携した情報発信や観光イベントの実施は、相乗的な集客や草加市を知らない人にも草加市の情報を届けられるなどの効果があることから、今後も引き続き連携を強化していきます。また、姉妹都市及び友好都市とは相互交流を深めながら、それぞれの都市の物産や文化などの魅力的な資源を草加市のイベント等に活用し、市の観光の魅力向上につなげます。

主な取組（アクションプラン）

アクションプラン	概要
①県、近隣市区町との連携による相乗効果の活用	<ul style="list-style-type: none">・埼玉県や近隣市区町で実施される観光推進を目的としたイベント等に積極的に参加したり、旅行パッケージ企画などで他自治体と連携することで相乗効果を創出します。・草加市観光大使パリポリくんなどを活用した他市区町とのコラボレーションや、『おくのほそ道』や宿場町をテーマとした広域的な周遊ルートの設定などによる連携強化を図ります。・市内の主要イベント等への他自治体からの出店を招くことなどにより、相互の交流を深めます。
②姉妹都市・友好都市との連携による魅力の向上	<ul style="list-style-type: none">・本市の姉妹都市である昭和村（福島県）やカーソン市（アメリカ合衆国）、友好都市である安陽市（中華人民共和国）の物産や文化などの魅力的な資源を市のイベント等に活用することで、来街者の増加につなげながら、3自治体のPR支援を行います。

3 リーディングプロジェクト

「つたえる観光」「みせる観光」「ささえる観光」「つなげる観光」の4つの基本方針に基づき、アクションプランを推進していくにあたり、今後の草加市の観光振興に向けて、重要性が高い取組として、次の4つの視点から、リーディングプロジェクトを定めます。

〈リーディングプロジェクト設定の視点〉

- 視点1** 草加らしい資源をいかし、インパクトが強く、大きな波及効果が期待できる取組
- 視点2** 観光だけに留まらず、他分野との横断的な連携強化により成果を広げていく取組
- 視点3** 行政だけでなく、市民・事業者・大学等との連携・協力により実現していく取組
- 視点4** 「つたえる」「みせる」「ささえる」「つなげる」の基本方針の牽引軸となる取組

Project 1

「草加松原・旧町を活用した観光」プロジェクト

観光×歴史

○目指す将来像

市民及び来街者の草加松原・旧町に対する愛着形成を図ります。

○概要

草加松原は、今なお『おくのほそ道』の時代の雰囲気を伝える風致景観であることが評価され、平成26年（2014年）3月18日に、おくのほそ道の風景地の一帯として国の名勝に指定されました。また、旧町地区はかつての宿場町の面影を残しています。このエリア一帯は広く草加市民に親しまれ、来街者が草加を訪れる代表的な資源として知られています。

このため、草加松原と旧町を草加市の文化資産・観光資源の核として、令和12年（2030年）に開宿400年を迎える草加宿の歴史や、市民の力によりこれまで育まれ守られてきた経緯を、市民や来街者に伝承していきます。また、日光街道や寺社、エリア内の施設・各種イベントなどを観光資源として磨き上げ、それぞれの資源を「草加松原」・「旧町」を軸にしてつなげていきます。

○具体的な取組（例）

浴衣の着付け・レンタル 草加まち歩きツアー 和舟の舟行

○協働の取組アイデア

草加松原・旧町を浴衣で歩くツアー企画

○関連アクションプラン

I “つたえる”観光	II “みせる”観光
(1) -①「観光資源やイベント、伝統産業の情報の発信」 -②「テーマ別に分類した情報の発信」 -③「タビマエ・タビナカ・タビアト情報の充実」 (2) -①「ターゲットに合わせた観光資源の整理・紹介」 -②「県内からの来訪者を増やすための情報発信」 (3) -①「様々な情報発信ツールを活用した観光情報の発信」 -②「観光マップや観光情報紙を配布した草加の魅力のPR」 -③「案内板などを活用した草加の観光資源の見える化」	(1) -①「来街者を魅了するイベントの実施」 -③「草加松原を観光資源としたイベントの実施」 (2) -①「地場産業のものづくり体験の拡充」 -②「和舟の舟行の推進」 (3) -①「既存資源の磨き上げによる魅力の向上」 -②「多様な体験型観光の展開」 -④「「草加らしい四季」の魅力の活用」 -⑥「ロケーションを活用した知名度アップ」
III “ささえる”観光	IV “つなげる”観光
(1) -①「市民の観光への関心・興味の醸成」 -②「まちかど観光案内所の情報発信力の向上」 -③「市内小・中学校における観光教育の推進」 (2) -②「観光案内人やお休み処などによる草加宿ならではのおもてなしの支援」 (3) -②「身近な交通手段の特性をいかした訪れやすい・過ごしやすい環境づくり」 -⑤「歩いて楽しいまちづくりと連動した観光の振興」	(1) -①「景観づくりで観光を演出」 -②「『おくのほそ道』との縁をいかした観光資源の創出」 -③「イベント連携による相乗効果の活用」

Project 2

「歩いて楽しい草加のまち」プロジェクト

観光×まちづくり

○目指す将来像

ウォーカブルなまちづくりと連携し、居心地よくまち歩きできる環境をめざします。

○概要

全国各地で官民が一体となり、街路や公園などの公共空間などを活用した歩行者空間の創出や利活用が進められ、まちなかのにぎわいづくりが活発化しています。こうした取組は、まちの滞在時間や快適性を向上させることで、観光の振興にもつながります。

このため、居心地がよく歩きたくなるウォーカブルなまちづくり、さらには、地域のにぎわいや魅力、エリア価値の向上を図るまちづくりと連携した観光施策を進め、市民や来街者にとって居心地が良く、ゆっくり歩き、のんびり休みながら時間消費を楽しめるまちをめざします。

○具体的な取組（例）

草加まち歩きマップ等の観光啓発物の作成

○協働の取組アイデア

街なかトイレマップ（利用可能な店舗などの表示）

にぎわい創出のための歩行者専用道路や公園の利活用

○関連するアクションプラン

I “つたえる”観光	II “みせる”観光
(1) -②「テーマ別に分類した情報の発信」 (3) -①「様々な情報発信ツールを活用した観光情報の発信」 -②「観光マップや観光情報紙を配布した草加の魅力のPR」 -③「案内板などを活用した草加の観光資源の見える化」	(2) -①「地場産業のものづくり体験の拡充」 -④「ものづくり体験ツアーの開催支援」 (3) -①「既存資源の磨き上げによる魅力の向上」 -②「多様な体験型観光の展開」 -④「「草加らしい四季」の魅力の活用」 -⑤「滞在時間向上につながる仕組みの構築」 -⑦「観光アプリ等を活用した新たな魅力の創出」
III “ささえる”観光	IV “つなげる”観光
(1) -②「まちかど観光案内所の情報発信力の向上」 (2) -②「観光案内人やお休み処などによる草加宿ならではのサポート」 (3) -①「安全・安心・快適な観光環境の向上」 -⑤「歩いて楽しいまちづくりと連動した観光の振興」	(1) -①「景観づくりで観光を演出」 -③「イベント連携による相乗効果の活用」 -④「開発等と連携した観光の推進」 (3) -①「県、近隣市区町との連携による相乗効果の活用」

Project 3

「子どもと一緒に楽しめるまち草加」プロジェクト

観光×子育て

○目指す将来像

観光を通して子育て世帯に対して草加の魅力をPRします。

○概要

大人も子どもも気兼ねなく楽しめる場は貴重で、子ども向けのイベントや施設は人気が高く、保護者も含めて集客力があります。

このため、市民や近隣市町村の子育て世帯をターゲットとして、乳幼児を含めた子どもを連れの方々が、周りに気兼ねなく参加できる観光イベントや観光ルート、旅行企画を用意し、また、気軽に参加しやすい環境を整備します。

こうした子育て世帯をターゲットにした観光振興を通じて、子育て・子育てしやすいまちづくりを進め、子育て世代にやさしいまちとして草加市をPRすることをめざします。

○具体的な取組（例）

和舟の舟行 草加ふささら祭り 草加モノづくり体験隊 春の子どもフェスタ

○協働の取組アイデア

子育て中の親子の居場所づくり

子連れの方を対象とした「子どもと行く観光モデルコース」の作成

旅行会社と連携した子連れ限定の観光バスツアーの企画

○関連するアクションプラン

I “つたえる”観光	II “みせる”観光
(1) -②「テーマ別に分類した情報の発信」 (2) -①「ターゲットに合わせた観光資源の整理・紹介」 -②「県内からの来訪者を増やすための情報発信」 (3) -①「様々な情報発信ツールを活用した観光情報の発信」 -②「観光マップや観光情報紙を配布した草加の魅力のPR」 -③「案内板などを活用した草加の観光資源の見える化」 -④「草加市観光案内所を活用した観光機能の充実」	(1) -①「来街者を魅了するイベントの実施」 -⑤「子どもが楽しめるイベントの実施」 (2) -②「和舟の舟行の推進」 -④「ものづくり体験ツアーの開催支援」 -⑤「草加を再発見する農業体験の開催」 (3) -②「多様な体験型観光の展開」 -⑦「観光アプリ等を活用した新たな魅力の創出」
III “ささえる”観光	IV “つなげる”観光
(1) -③「市内小・中学校における観光教育の推進」 (3) -①「安全・安心・快適な観光環境の向上」 -②「身近な交通手段の特性をいかした訪れやすい・過ごしやすい環境づくり」 -③「移動・周遊の向上に資する交通対策の推進」	(1) -③「イベント連携による相乗効果の活用」 (2) -③「教育機関等との連携による観光の強化」 (3) -①「県、近隣市区町との連携による相乗効果の活用」

Project 4

「市民が草加を誇り、草加を楽しむ」プロジェクト 観光×市民

○目指す将来像

観光をきっかけとして、市民の自らのまちに対する誇りや愛着の醸成を図ります。

○概要

「草加は観光地ではない」という考えもあります。しかし、市外や海外から観光客を呼び込むことだけが観光ではありません。市民が、日常の中で市内の各所を訪れ、そこでのイベントや人との交流などを楽しみながら、改めて草加に愛着を感じてもらうことは重要な観光の一つです。

このため、市民が日々の暮らしの中で草加のまちを楽しみ、草加の魅力を再発見し、自分たちの手で草加の魅力を発信してもらう取組を重要な観光施策として進めることで、市民が自らのまちを誇りに思い、愛着を感じるようなシビックプライド醸成をめざします。

○具体的な取組（例）

市民発の情報発信「#そうかいろ」

○協働の取組アイデア

「草加の魅力を再発見」をテーマに情報発信及びツアー等イベントを企画

「観光」という概念を変えられるような発信の仕方を行う

○関連するアクションプラン

I “つたえる”観光	II “みせる”観光
(1) -①「観光資源やイベント、伝統産業の情報を発信」 -②「テーマ別に分類した情報の発信」 (2) -①「ターゲットに合わせた観光資源の整理・紹介」 -③「草加ファンやフォロワーの拡大」 (3) -⑦「市民が自ら発信する情報の充実」	(1) -②「音楽都市「草加」らしいイベントの実施」 -④「スポーツでにぎわうイベントの実施」 -⑤「子どもが楽しめるイベントの実施」 (2) -③「ものづくり体験ツアーの開催支援」 -④「草加を再発見する農業体験の開催」 (3) -①「既存の資源の磨き上げによる魅力の向上」 -②「多様な体験型観光の展開」 -③「ストーリー仕立てで魅力の向上」 -④「「草加らしい四季」の魅力の活用」 -⑥「ロケーションを活用した知名度アップ」
III “ささえる”観光	IV “つなげる”観光
(1) -①「市民の観光への関心・興味の醸成」 -③「市内小・中学校における観光教育」 (2) -③「市内の商店会の活動の活性化を支援」 -④「多様な市民団体が自主的に行う活動の支援」 (3) -①「安全・安心・快適な観光環境の向上」 -④「にぎわい創出に向けた公園等の公共空間の運用」 -⑤「歩いて楽しいまちづくりと連動した観光振興」	(1) -③「イベント連携による相乗効果」 -④「開発等と連携した観光」

4 計画の推進に向けて

本計画の取組は、行政だけでなく、観光協会をはじめ、商業・工業・農業・サービス業などの関連事業者、市民団体や市民とともに連携協力して進めていくことにより、実現性が高まります。

計画の推進にあたっては、多様な観光の取組を進めつつ、新たな観光の担い手の育成、さらに観光を軸とした新しいアイデアの創出や、そのアイデアを実現するための体制づくりを進めるとともに、各主体が連携して取り組んでいくことを通じて、草加市への愛着（シビックプライド）などの醸成にもつながるよう進めていきます。

（1）計画の実現化に向けた方針（実現化方針）

本計画を着実に実行し、より良い成果を生み出していくために、次の3つを計画の実現化に向けた方針（実現化方針）として定めます。

【計画の実現化に向けた方針】

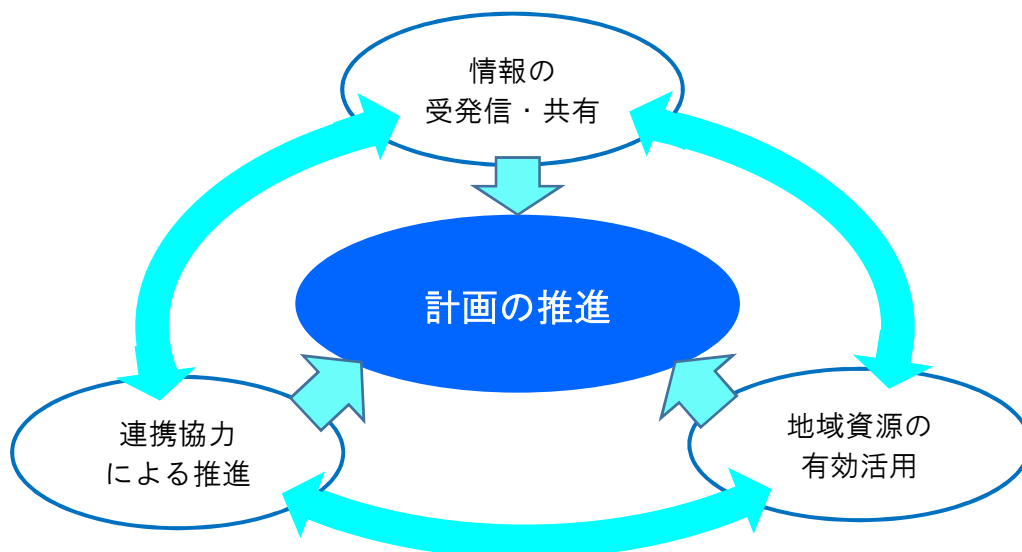
実現化方針1 情報の受発信・共有

実現化方針2 地域資源の有効活用

これら3つの実現化方針は、アクションプラン等を実施していくための共通の基盤であり、進め方のポイントや実施にあたって留意すべき内容を示しています。

アクションプランが、「何をするか（WHAT）」の取組内容を示しているとするれば、実現化方針は、「どのように進めるか（HOW）」を表しています。

さらに、これら3つの方針は、アクションプラン等を実施していくための「推進力」であり、相互に連動することで、相乗効果や波及効果を生み出しながら成果を高めていきます。3つの実現化方針に基づき進めていく際には、行政がコーディネートしながら、市民や事業者、関係機関等との連携協力関係の形成・発展を目指し、これを支えていきます。



実現化方針 1 情報の受発信・共有

市民・事業者・関係機関等が連携協力して観光振興に取り組めるよう、必要な情報の受発信や共有を通じて、共通の認識や目標など取組にあたっての共通基盤を形成しながら進めていきます。

◆情報の受発信

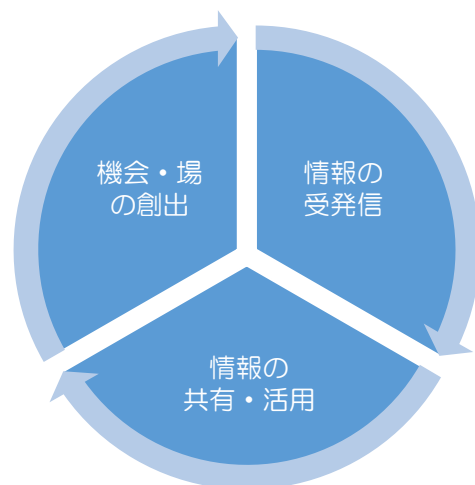
草加市の観光資源や取組などに関する情報の受発信力を高め、伝達方法なども含めて適切な情報受発信を促進します。

◆情報の共有・活用

適切な情報共有を進めるとともに、地域や事業者などの情報を有効に活用し、新たな取組へとつなげていきます。

◆機会・場の創出

情報の受発信や活用によって生み出されたきっかけ等を育むことで、観光の幅を広げていく機会や場を培っていきます。



実現化方針 2 地域資源の有効活用

市内の地域資源を有効に活用することで、観光を通じた地域のにぎわい・活性化・交流などを実現し、豊かな暮らしを実現する方向で進めていきます。

◆地域資源の再発見

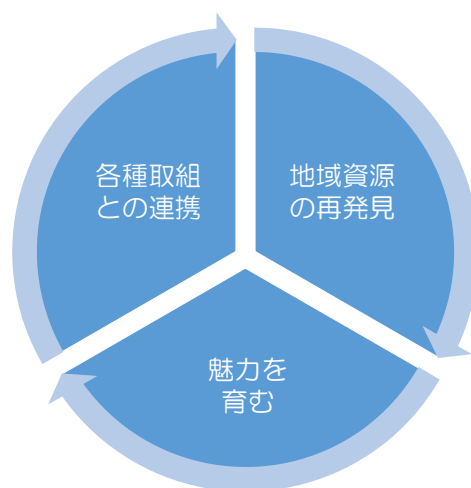
様々な取組を通じて、「ヒト・モノ・コト」などの多様な地域資源を掘り起こしていきます。

◆魅力を育む

市内各地や身近な地域で、楽しみ・味わい・ふれあい・交流しながら、地域資源の魅力を育てていきます。

◆各種取組との連携

市民活動や地域活動などの取組とも連携しつつ観光振興を進めていくことで、取組の効果を広げていきます。



実現化方針 3 連携協力による推進

観光振興に向けた取組を、世代や地域、分野や団体といった垣根を越えて、横断的に連携協力しながら進めることで、アクションプラン等の実現性や成果を高めていきます。

◆ 出会い・交流機会の創出

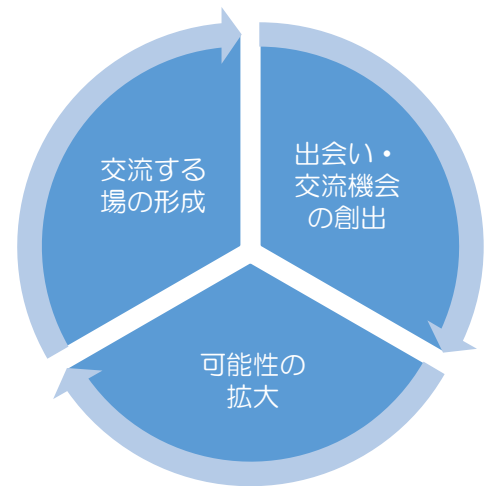
来街者・市民同士の出会いも含めて、観光振興による新たな出会いや交流の機会を創り出します。

◆ 可能性の拡大

ヒトや地域資源との出会い・交流を大切に育みながら、観光振興の芽や可能性を広げていきます。

◆ 交流する場の形成

市民や各種団体が集う場（プラットフォーム）の形成を目指し、良好な連携協力関係を築いていきます。



観光振興に向けて、関係する主な担い手ごとにて期待されることを整理すると、次のとおりです。

■ 市民

自らの住む草加の歴史、文化、産業、自然等の特性を知り、草加に誇りと愛着を持ち、草加を訪れる方をおもてなしの心で迎えるよう努めます。

観光を推進する地域活動に積極的に参加し、本市の魅力が向上するよう取り組んでいきます。

■ 観光協会

これからの草加の新しい観光の取組にも対応できる組織として観光協会の体制の充実を図るとともに、イベントなどの運営や各種企画の効果などを主体的に担える人材や体制を整え、様々なニーズに迅速に対応できる組織となるよう取り組んでいきます。

■ その他各種観光関連団体

草加の歴史、文化等に関する知識習得に努め、市民や来街者を温かくもてなします。

観光振興につながるイベントや取組等に、他団体や市民等と連携しながら積極的に関わることを通じて、草加市の魅力を高めていきます。

■ 経済・業界団体

自らの事業及び取組が観光推進に資することを理解し、市民や他団体等と連携を図りながら本計画の取組に積極的に関与することとします。

■ 教育機関

小中学校、高校及び大学が開催する行事等を観光資源とすることと、また各教育機関が持つ教育に関する専門性をいかしたノウハウを市民、事業者へ提供することなどを通じて観光の振興に貢献することとします。

■ 行政

市民や民間事業者・団体による観光振興に資する取組を支えるとともに、施設整備など他分野との調整や他自治体・教育機関等との連携、各種補助金の活用などを担います。

本計画の推進を通じて、地域の活性化や豊かな市民生活とともに、「～おもてなしの心が息づく観光の実現～」を、市民や民間事業者・団体とともに目指します。

(2) 計画の進行管理

本計画の進行を管理し、適切に運用を図っていくために、次の3つの点を中心に計画の進行管理を進めていきます。

① 庁内の横断的な連携による推進

本計画の施策の具体的な取組（アクションプラン）の進捗状況の把握や進行管理を行う組織として、前計画の庁内推進会議・庁内推進検討委員会の構成を見直しながら、引き続き推進会議・検討委員会を設置して計画の進行管理を行います。

② 進行管理の仕組み・体制の充実

学識経験者や市民等から、専門的で幅広い視点からの意見を取り入れつつ、広く分野横断的に連携しながら、本計画の進行管理を行います。

個々のアクションプラン等の実施状況については、実施計画や事業評価と連動しつつ、節目ごとにチェックすることで適切にフィードバックし、改善しながら進めていきます。

③ PDCAサイクルによる見直し

実施計画や予算の見直しとも連動させ、実行性・実効性が向上する仕組みへと改善しながら、進行管理を進めていきます。

また、現状の評価から始めて、改善し、計画の見直しにつなげていく「CAPDサイクル」による進行管理の方法も含めて検討していきます。

※ PDCAサイクル：Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のこと。